



統 合 報 告 書 2 0 1 9

Lifting your dreams

## 株式会社 タダノ

〒761-0185

香川県高松市新田町甲34番地

TEL 087-839-5555(代表)

FAX 087-839-5743

[www.tadano.co.jp](http://www.tadano.co.jp)



高速道路、高層ビル、といった巨大建築物から  
夢のマイホームづくりのお手伝いまで。  
時には環境にやさしい風力発電のプロペラを。  
また作業環境の厳しい地でも、お客様の信頼に応え、  
私たちの技術・製品が、たくさんのおものを吊り上げてきました。

# Lifting your dreams

私たちは「創造・奉仕・協力」の経営理念のもと、  
これからも、皆様のさまざまな「夢」の実現をお手伝いします。



## Contents

|       |  |       |  |       |                     |
|-------|--|-------|--|-------|---------------------|
| 1-4   | <b>Introduction</b><br>目次／経営理念(事業目的)                   | 25-32 | <b>ステークホルダー<br/>エンゲージメント</b><br>お客様への約束<br>社員との約束<br>取引先との約束<br>株主・投資家への約束<br>社会への約束 | 41    | <b>トピックス</b>        |
| 5-6   | <b>沿革</b>  | 33-36 | <b>コーポレート・ガバナンス&amp;<br/>コンプライアンス</b>  | 42    | <b>会社概要・株式の状況</b>   |
| 7-12  | <b>Top Message</b>                                     | 37-38 | <b>業績・財務ハイライト<br/>(連結ベース)</b>  | 43-46 | <b>グループ会社・事業所一覧</b> |
| 13-14 | <b>価値創造プロセス</b>  | 39-40 | <b>連結財務諸表</b>  |       |                     |
| 15-16 | <b>Value Chain</b><br>創る・造る・届ける・サービスする                 |       |  |       |                     |
| 17-24 | <b>事業セグメント</b><br>建設用クレーン<br>車両搭載型クレーン<br>高所作業車<br>その他 |       |  |       |                     |

## 編集方針

経営理念「創造・奉仕・協力」の実現を事業目的として掲げる当社は、「世の中のお役に立つものを提供したい」「事業を通じて世の中に貢献できる企業でありたい」という創業時からの思いを大切に、「世界に、そして未来に誇れる企業」を目指し、全てのステークホルダーの期待に応え、企業価値を最大化する取り組みを進めています。

本報告書では「財務情報」と、ESG(環境・社会・ガバナンス)などの「非財務情報」を統合して説明しており、株主・投資家をはじめとしたステークホルダーの皆さまに当社の持続的成長についてご理解を深めていただくことを目的に発行しています。

今後も読者のご意見等を反映しながら、統合報告書としてのより一層の改善に努めてまいります。



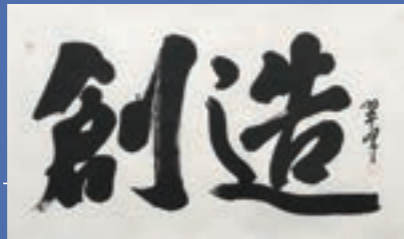
当社ウェブサイト(日・英)でも決算やESGに関する情報を開示しています。ぜひご覧ください。

【日】 [www.tadano.co.jp](http://www.tadano.co.jp)  
【英】 [www.tadano.com](http://www.tadano.com)

※本報告書における掲載データについて  
財務情報・製品情報については2018年度決算報告(2019年3月末時点)のデータを、それ以外は2019年8月末時点のデータを掲載しています。なお、2019年7月末に買収が完了したDemagクレーン事業の財務情報等の詳細は掲載していません。

今日も世界各地の現場で活躍する  
タダノの製品。次ページではその  
DNAである「創造・奉仕・協力」を  
ご紹介します。

# 世の中のお役に立つ製品を — 経営理念「創造・奉仕・協力」の実現こそが タダノの事業目的です。

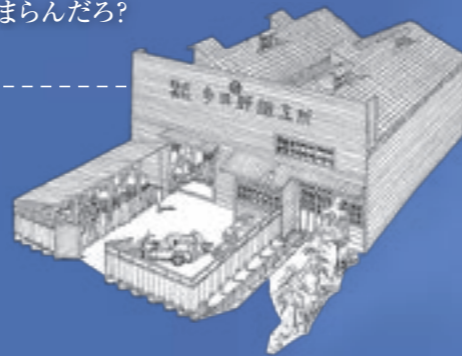


鉄工所をやろう! 我々の技術を活かした鉄工所を。

人様の役に立つ仕事をしていれば必ず成功する。いいか、まず力を合わせて仲良くやるのが基本だ。

それが次に繋がる。それとあんまり人がやっていないような新しい仕事を選ぼうな。

みんながやっとなるようなことの後追いをしてもつまらんだろ?



創業者・多田野益雄の言葉です。

この言葉の根底にあったのは「企業は社会や人との調和の中で生かされている存在」という考え方です。

私たちは調和の中で生かされているからこそ、人のお役に立ち(奉仕)、皆で力を合わせ(協力)、世の中に新しい価値を提供すること(創造)を目指そう、と考えてきました。

経営理念「創造・奉仕・協力」はここから生まれました。

「創造・奉仕・協力」は経営理念であると同時に、私たちが事業をする目的そのものでもあります。

たった4人と24坪の小さな工場から始まった鉄工所が、日本で初めての油圧式トラッククレーン「OC-2」を開発。

その後も大胆な挑戦と全社の一致団結で、さまざまな製品を送り出しました。

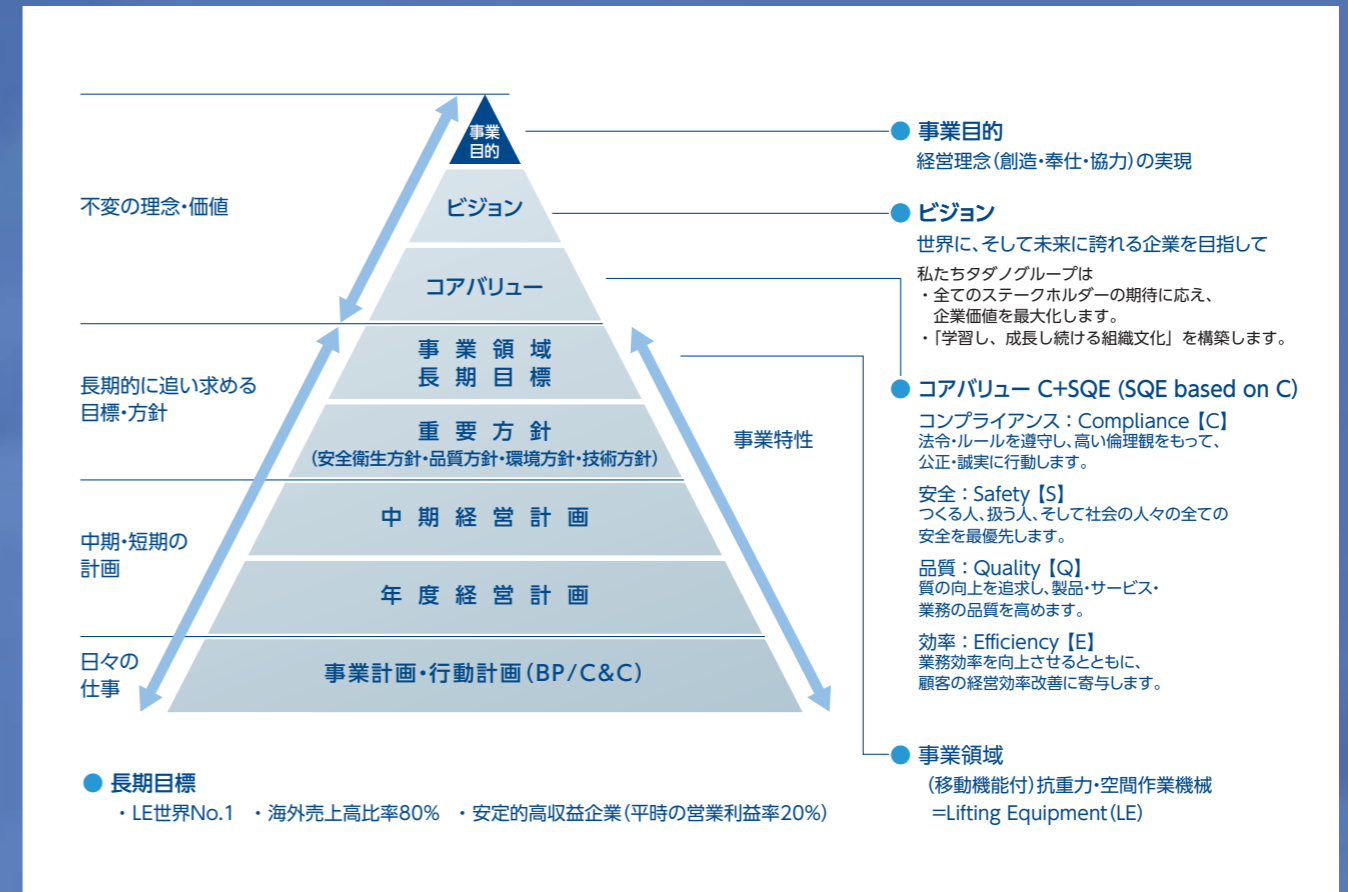
今日も世界のどこかで私たちの製品が、誰かのお役に立っています。

「世の中のお役に立つものを創りたい」「社会の発展に貢献できる企業になりたい」

この思いがタダノの歴史を作ってきました。「創造・奉仕・協力」は私たちのDNAです。

## 事業の全体像(事業ピラミッド)・LEの製品カテゴリ

### ■ 事業の全体像(事業ピラミッド)



当社の事業の全体像を表す事業ピラミッドの頂点には、【事業目的】として「経営理念(創造・奉仕・協力)の実現」を位置づけ「到達点のない永遠に目指すべきゴール」として、より高みを目指しています。

また【ビジョン】として「世界に、そして未来に誇れる企業を目指して」掲げています。私たちタダノグループは、全てのステークホルダーの期待に応え、企業価値を最大化するとともに「学習し、成長し続ける組織文化」を構築します。

私たちにとって絶対譲れない価値観、それは「C+S+QE (SQE based on C)」のコアバリューです。コンプライアンスは、すべての土台であり安全第一・品質第二・効率第三という優先順位はどんな時も変わりません。但し、三番目の効率を抜きにして企業経営は成り立ちません。そのためにも「安全第一」・「品質第二」を何としても確保しなければなりません。安全も、品質も、効率も、コンプライアンスという土台がな







いと確保できないと考えています。これらは不変の理念・価値です。

その上で、私たちはLE (Lifting Equipment、日本語では(移動機能付)抗重力・空間作業機械)を事業領域と定め、【長期目標】LE世界No.1、海外売上高比率80%、平時の営業利益率20%を掲げ、取り組んでいます。

人口動態的に考えれば、LEは長期的に見て「成長産業」であり、業界も当社も今後のポテンシャルは高いと考えています。ただし長期的には右肩上がりでも、短中期的には需要がアップダウンを繰り返す傾向があります。

LE世界No.1となるために私たちは、「商品力」「製品品質」「(部品を含めた)サービス力」「中古車価値」の4つが高いレベルでバランス良く整った「四拍子そろったメーカー」を目指しています。

### ■ LEの製品カテゴリ

|                |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|----------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|                | 油圧式クレーン   | 伸縮ブーム式クローラークレーン   | クローラークレーン   | タワークレーン   | 直伸式クレーン   | 折曲式クレーン   | 高所作業車   | 天井クレーン  | 港湾クレーン  | オフショアクレーン   | インダストリアルクレーン  |
| タダノグループの保有カテゴリ | ○   | ○   | ○※1   |   | ○   | ○※2   | ○   |   |   |   |   |

※1 2019年2月に発表したDemagクレーン事業の買収完了により追加  
※2 2018年5月に資本提携したManitex社の製品を追加

# 2019年、株式会社タダノはおかげさまで創業100周年を迎えました。

## 1919 - 1954

### 1919 多田野益雄が北海道にて創業

創業者・多田野益雄は香川県高松市で生まれ育ち、溶接業を立ち上げるべく北海道・旭川へ旅立ちました。その旅立ちの日である1919年8月29日を創業の日と定めています。当時は海外において溶接技術が普及・発展し、日本にも導入されはじめた頃でした。創業者は、溶接の火花に魅了され、世の中のお役に立つことを確信し、北海道の地で事業を興しました。



創業者・多田野益雄

### '48 (株)多田野鉄工所を設立、初代社長 多田野益雄 資本金50万円



設立当時の(株)多田野鉄工所

### '50 鉄道保線機械を発明、日本国有鉄道へ納入



軌条枕木位置修正機

### '54 油圧式産業機械の開発着手

## 1955 - 1997

### '55 日本初の油圧式トラッククレーン1号機(OC-2型)完成

創業以来、さまざまな製品開発へ独自にトライし、溶接や油圧の技術を磨いていた多田野鉄工所は1955年、建設機械雑誌の情報をヒントにオリジナルの「油圧式トラッククレーン」OC-2型を開発生産。日本初の製品ということで全国から注文が殺到し、結果的に当社はクレーンメーカーとしての第一歩を踏み出すことになりました。



OC-2

### '59 本社工場を現在地の香川県高松市新田町に新設移転

### '60 油圧式トラッククレーンをインドネシアへ初輸出

### '61 「創造・奉仕・協力」を社是と定める

### '63 カーゴクレーン(TM-2H)を発売 [車両搭載型クレーン]

### '70 日本初のラフテレーンクレーン(TR-150)を発売



TR-150

### '72 日本初の過負荷防止装置(AML)を開発 東京・大阪両証券取引所各市場第一部に指定替上場

### '73 初の海外子会社としてTadano International (Europe) B.V.をオランダに設立

### '80 香川県さぬき市志度に志度工場新設

### '83 当社初の高所(活線)作業車(AT-136TE、AT-140TE)を発売

### '84 北京事務所を中国に設立

### '89 株式会社タダノに社名変更

### '90 ドイツFAUN GmbH <現 Tadano Faun GmbH>を買収

### '91 イースター島アフ・トンガリキのモアイ修復プロジェクト着手

津波や部族間の抗争で倒されたモアイ像を「クレーンがあればモアイ像を起こせるのに」と呼びかけたテレビ番組を社員が目にし「モアイ修復プロジェクト」が発足。政府や海軍、考古学者や島民の協力を得て1995年、アフ・トンガリキに15体のモアイ像が蘇りました。その後も当社寄贈のクレーンが島の人の生活に使われるなど、現在も関係が続いています。



モアイ修復プロジェクト

### '93 Tadano America Corporationをアメリカ・テキサス州に設立

### '96 Tadano-Multico (S.E.ASIA) Pte. Ltd. <現Tadano Asia Pte. Ltd.>をシンガポールに設立



FAUN親会社との基本合意締結

## 1998 - 2007

### '98 国内最大550t吊りオールテレーンクレーン(AR-5500M)を発売

「世の中のお役に立つ機械を提供したい」との思いから当社は、ラフテレーンクレーン、オールテレーンクレーン、カーゴクレーン、高所作業車をはじめ、さまざまな製品を世に送り出してきました。(写真は国内最大級の550トン吊りAR-5500M)



AR-5500M

98年度、99年度、2001年度と三度にわたり当期損失を計上し、人員削減を実施

### '03 中東事務所をUAEに設立

### '04 当社最大規模のリコールを届出 (ラフテレーンクレーン約1万6千台)

2004年、岡山県の国道で当社製ラフテレーンクレーンによる死亡事故が発生。安全装置の不具合が要因と判明し12月に8型式16機種15,278台もの大規模なリコールを届出しました。また「建設機械は公道を走らせていただいている」との気づきを得て、当社がCSR(企業の社会的責任)に注力するきっかけともなりました。

### '07 香川県多度津町に多度津工場新設



多度津工場

## 2008 - 2019

### '08 事業領域をLEと定める 千葉市に千葉工場を新設 Tadano Faun Stahlbau GmbHをドイツに設立 米国SpanDeck Inc. <現 Tadano Mantis Corporation>を買収



GTC-1200

### '10 Tadano Oceania Pty Ltdをオーストラリアに設立

### '11 Tadano Brasil Equipamentos de Elevação Ltda.をブラジルに設立

### '12 新興国向けカーゴクレーンの生産拠点として、Tadano (Thailand) Co., Ltd.をタイに設立

当社グループ製品が世界中で活躍するようになり、生産拠点多く世界各地に拡大しています。1990年のドイツ・FAUN社の買収を皮切りに、2008年には米国、2012年にはタイ、その後インドやドイツにそれぞれ生産拠点を拡大し、日本で培ったものづくり文化を展開しています。



TTC社員と製品

### '13 世界最大級の吊り上げ能力を誇るラフテレーンクレーン(GR-1600XL、GR-1450EX)を発売



GR-1600XL

### '14 イギリスのCranes UK Ltd. <現Tadano UK Ltd.>を買収

### '15 グループ連結売上高が初めて2,000億円を突破 (2014年度・2015年度にわたって)

### '16 Tadano France SASをフランスに設立

### '17 タダノグループ中期経営計画(17-19)発表 Tadano Italthai Co., Ltd.をタイに設立

### '18 Tadano Nederland B.V.をオランダに設立 Tadano Belgium B.V.B.A.をベルギーに設立 Tadano Chile SpAをチリに設立 モスクワ事務所をロシアに設立 Manitex International Inc.(米国)に出資

### Tadano Escorts India Pvt. Ltd.をインドに設立



インド合弁会社設立発表

### '19 香川県高松市香西北町に香西工場を新設

LE世界No.1の達成に向けて、新工場が必要と考え、高松市に20ヘクタールの用地を取得し、2019年4月、建設用クレーンを生産する香西新工場が竣工しました。「Next Generation Smart Plant~人と機械が調和し、次世代につながるスマート工場~」をコンセプトに、8月から本格稼働を開始しました。



香西工場

### Terex社からのDemagクレーン事業買収を完了

# 世界に、そして未来に誇れる 企業を目指して



## 創業100周年を超えて

### 100年の歴史

香川県高松市で生まれた創業者多田野益雄は、1919年8月北海道旭川で溶接業を立ち上げました。当時は、海外において溶接技術が発展し、日本にも導入され始めた頃でした。当時の先端技術であった溶接の火花に魅了され、溶接技術を身に付けた上で、北海道で事業を興しました。

数年後に拠点を室蘭に移しましたが、真面目で真摯に取り組む姿勢と緻密な仕事ぶりが評価され、事業そのものは順調でしたが、1923年に関東大震災が発生。日本全体が混乱に陥る中、帰郷を決意したようです。高松に戻ってからは、溶接業に加え、様々な事業に取り組みました。一時期は銅鉱山を保有していたこともあったそうです。

そして、第二次世界大戦では、終戦間近の1945年7月に高松市も激しい爆撃を受け、市街地の8割が焼失しました。何もかも失くし命だけが残った終戦から3年後の1948年に、タダノの前身である(株)多田野鉄工所を立ち上げました。4人の従業員と24坪の工場からの小さなスタートでした。祖業である溶接技術と、強い力を生み出せる油圧技術を組み合わせ、何か新しいものはできないかと試行錯誤を繰り返しました。そこにあったのは、ただ「世の中のお役に立つものを創りたい」「世の中の発展に貢献できる企業になりたい」という創業者の素朴で一徹な思いでした。そして、1955年に日本で初めてとなる油圧式トラッククレーンOC-2型を開発しました。これが、クレーンメーカーとしてのタダノのスタートとなり、現在に至っています。

おかげさまで、2019年8月29日に、創業100周年を迎えることができました。

### 不易流行

100年を超える長寿企業に共通することは、「不変」と「革新」を併せ持つことだといわれています。松尾芭蕉が説いたとされる「不易流行」はまさにその意味であり、不易=変わらないこと、流行=変わることをどう併せ持つかが大切だと考えています。

今の時代、創業100周年を迎えたからといって、10年後、20年後が保証されているわけではありません。だからこそ、時代に流されることのない、しっかりとした軸を持ち、時代の変化に合わせて、変えるべきところは柔軟に変えていく。そうあるべきと捉えています。

「不易流行」を当社に置き換えれば、事業ピラミッド(P4掲載)の上3段、「事業目的」「ビジョン」「コアバリュー」が不変の理念・価値であり、「不易」にあたります。当社の事業目的は、経営理念「創造・奉仕・協力」の実現であり、ビジョンである「世界に、そして未来に誇れる企業を目指して」とコアバリューを合わせて、タダノが存続する限り、これらは絶対に変えてはならないものだと考えています。

なお、これまでコアバリューは、「安全・品質・効率」で、Safety・Quality・Efficiencyの頭文字をとって「SQE」と表現していました。このSQEに「コンプライアンス」の「C」を追加し、「C+SQE」(SQE based on C)とすることにしました。安全第一・品質第二・効率第三という優先順位はどんな時も変わりませんが、いずれもコンプライアンスという土台がしっかりしてなければならないということ、改めて明文化したものです。

事業ピラミッドの4段目「事業領域・長期目標」からは、「不易流行」の「流行」であり、時代の変化に合わせて柔軟に変えていきたいと考えています。とは言え、事業領域・長期目標は頻繁に変えるべきではなく、10年から20年はキープできるものでありたいですね。

代表取締役社長

## 多田野 宏一

1954年、香川県高松市生まれ。丸紅株式会社を経て、1988年株式会社タダノに入社。1997年にドイツのグループ会社FAUN GmbH(当時)の社長に就任。また同年タダノ取締役にも就任。2003年に株式会社タダノ代表取締役社長に就任し、現在に至る。

## 事業特性を踏まえた経営

### LE業界は景気の波に左右されやすい特徴

油圧ショベルなどの建設機械と比較すると、建設用クレーンなどLEは耐久性に優れ、寿命も長く、中古車としての価格が高いのが特徴です。当社のお客様に関しては「壊れたから買い替える」というよりは、景気が良くなったら新しい製品に買い替え、景気が冷え込むと買い替えを待つ傾向にあるという投資行動があります。つまりLEは、他の建設機械と比べて景気の波に左右されやすいという特徴があるのです。

外部環境の影響を受けやすい企業の経営者として、「これは景気サイクルなのだから仕方ない。需要が回復すればまた黒字になる」と開き直る選択肢もあるのかもかもしれません。しかし私たちは、LEという分野で需要がアップダウンするという宿命を受け入れた上で、それをどう乗り越えるかが大きな課題だと考えています。「想定外」という言葉をよく聞きますが、想定外のせいにせず、それを織り込んでいける強い会社を作りたいです。

この考え方を具体的に表現したのが「4つの矢印」の話です。

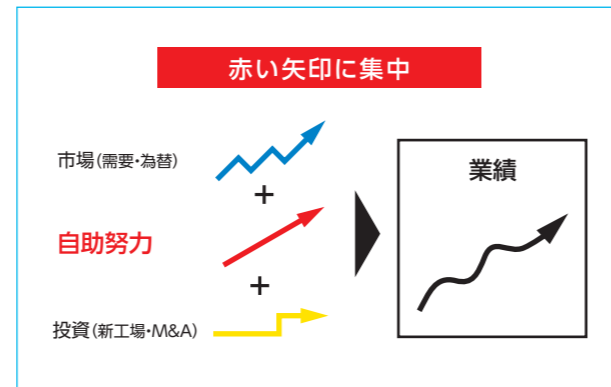
### 4つの矢印

【青】は空の色であり、天候のごとく、複雑に変化する市場・需要動向や為替（外部環境）を指します。【赤】は情熱の色であり、自助努力=自分たちが頑張ればなんとかかなる・コントロールできることを指します。【黄】は黄金の色であり、新工場建設やM&Aといった大きな投資を指します。3つの色を合わせると【黒】（利益の色）になります。

私たちは【青い矢印】に一喜一憂することなく、自分たちがコント

ロールできること【赤い矢印】に集中することが大切だと考えています。良いときも悪いときも弛まぬ努力を続け、毎期ごとに、結果を出しながら質的に成長していく=【赤い矢印】が常に右上を向いている、そんな企業でありたいと考えています。

過去の当社は、需要が高まれば業績も良化し、喜んでいました。需要が低下すれば業績も悪化し、慌てていました。業績の主要因は需要動向でありながら、ただ結果に一喜一憂を繰り返していました。そこから脱却するために「4つの矢印」を設定したわけですが、その中でも特に赤い矢印が大切です。また現代は予測しづらい世の中であり、青い矢印に対して予測・準備・対応することも大切です。いつ変化が起きてもいいように、常に両様の構えをしておきたいと考えています。



### 忘れてはいけないこと

いつも社員に伝えている「当社が絶対に忘れてはいけない3つの重要な出来事」があります。1つ目は1998年から2002年にかけての不況期に3回の人員整理をしたこと。2つ目は2004年のリコール問題、3つ目は過去4件発生した労災死亡事故です。

以降、当社は「人は財産である」という考えのもとで「人材」を「人材」と表記し、人材育成へ更なる注力を行っています。また「私たちの製品は公道を走らせていただいている」との気づきを得て、CSR（企業の社会的責任）に力を入れるようになりました。そしてどんな時も絶対に譲れない価値観としてコアバリュー（安全・品質・効率）を定め、「安全」を全てに優先させるようになりました。

## 新たな成長に向けて

### 複雑・高速・極端に変化する時代

今、世の中は歴史的に見て大きな不安定期に入っており、世界は複雑・高速・極端に変化する時代を迎えていると感じます。政治の世界でも主要先進国が指導力を失い、指導者不在の「Gゼロ」時代と表現する人もいます。政治の不安定さが、景気・経済にもつながっており、予測しがたい自然災害も発生しています。技術の進化も急速で、世の中のあり方を大きく変えるような技術革新がもたらす、いわゆるエクスポネンシャルな（指数関数的な）変化が少しずつ見え始めています。変化はひとたび顕在化すると、劇的・爆発的に拡がり、社会を変えていきます。LE業界にもそのような変化が迫っていると考え、対応していく必要があります。

### 技術革新による大きな変化

当社は1955年に日本初の油圧式クレーンOC-2型を開発し、60年以上にわたって、基本的には「より重いものをより高く・速くへ」運べる技術開発を進めてきました。2017年には「技術研究部門」を独立し、更なる技術革新を進めています。

たとえば私たちの製品が活躍する「建設業界」では、特に日本においては、少子高齢化による生産年齢人口の減少、建設就業者の減少が大きな問題になりつつあります。クレーンを自由自在に操作できる熟練オペレーターも減りつつある中で、技術革新によってクレーン操作をより簡略化・容易化・自動化することで現場の安全性を向上させる方向に行かなければなりません。将来的にはEVや自動運転可能な機械を世に送り出すことになるでしょう。

ただし、建設用クレーンは走行姿勢と作業姿勢の切り替えに始まり、ブームの長さや角度などによって様々な状態が変化（トランスフォーム）する機械です。機械の状態が変わっても転倒しない、安全で安心できる製品を送り出す必要があります。建設現場の中で当社製品だけが技術的に突出しても意味がなく、全体の作業効率をどう引き上げるかの方が重要です。また、地球環境に優しい機械でなければなりません。建設現場におけるクレーンの役割自体も考え直す時に来ているのではないか、という問題意識から、京都大学と包括連携共同研究契約を締結しています。また他にも多くの大学・パートナーとAIなどの個別テーマでも研究に取り組んでいます。

### Demagブランドのクレーン事業

2019年7月末にDemagブランドのクレーン事業買収が完了し、8月1日に受け皿である新会社タダノ・デマグ GmbH(=TDG)がスタートしました。同日、ドイツ・ツバイブリュッケンにおいてTDGの全社員を集めてDay 1 イベントを開催し、当社の経営方針や基本的な考え方などを説明しました。TDGは吊り上げ能力1,200トンまでのフルラインナップのオールテレーンクレーンと、吊り上げ能力400トンから3,200トンまでのラインナップのクローラクレーンを有しています。

## 重要テーマと打ち手

### グループシナジー最大化(+TDG)

2018年12月にスタートした、インドの合併会社タダノ・エスコーツ インディア Pvt. Ltd.(=TEI)、2019年8月に稼働を開始した新工場である香西工場、そしてタダノ・ファウン GmbH(=TFG)とTDGを有するドイツ事業。これら3つがそろったことによって、タダノグループはLE世界No.1に向けた一里塚である売上高3,000億円を目指し、突破できるだけの「材料」は集まったこととなります。それらをどう「料理」するかが目の前の大きな課題となりますが、今後はアメリカのタダノ・マンティス Corp.(=TMC)やタイのタダノ・タイランド Co., Ltd.(=TTC)も含めて、「長期的な利益成長」を目指すために、グループシナジーを最大化する努力をした上で、One Tadanoとして「オーガニックな成長」に最大限注力していく考えです。



香西工場の概要

|                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| 名称/香西工場          | 建物延床面積/約4.7万㎡(約1.4万坪) |
| 所在地/香川県高松市香西北町   | 投資額/約200億円以上          |
| 敷地面積/約20万㎡(約6万坪) | 社員数/約100人             |



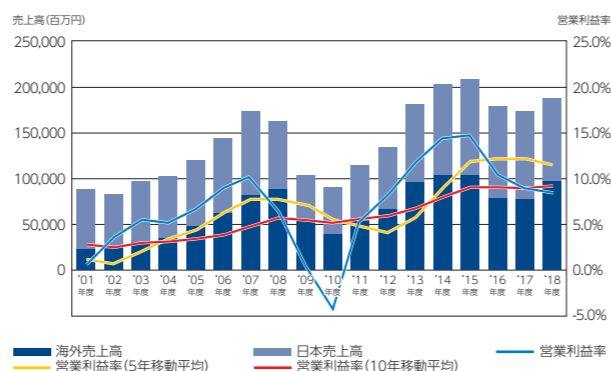
## 「志」を持って、未来へ向かう

### タダノにとっての成長とは

再度強調しますが、私たちは【青い矢印】に一喜一憂することなく、自分たちがコントロールできること【赤い矢印】に集中しよう、ということを経営の考えとしています。赤い矢印に集中し続けることにより質的な成長の継続は可能であり、当社の成長の度合いは変動する「業績サイクルの波」を1つ前のものと見比べることで確認できると考えます。

具体的には、過去18年間の業績(売上高と営業利益率)の推移をグラフで見ていただきたいのですが、02年度から始まり、07年度にピークを迎えた波は、リーマン・ショックを契機に急落しました。しかし10年度を底に、そこから始まった次のサイクルを見ると、後者のグラフにおける売上高と営業利益率は、前者を大きく上回っています。これこそがタダノグループの成長を示しています。もちろん常に増収増益であれば言うことなしですが、「変動する波を1つ前より必ず上回ること」それこそが成長だと考えています。「青い矢印の影響で減収減益となってしまっても、質的な成長は可能だ」ということを、社員には言い聞かせています。

当社売上高・営業利益率・シェアの推移



### 誇れる企業を目指して

リーマン・ショックによる急激な需要減少に耐え切れず、10年度に過去最大の赤字を計上した経験から、中計(11-13)では構造変化への適応を進め、中計(14-16)・中計(17-19)では「強い会社」に(赤い矢印への集中)を基本方針として取り組んできました。まだまだ脆弱さは残っていますが、それでも以前に比べればだいぶ「強い会社」になってきたのではないかと感じています。

一方で、それによる弊害も見られるようになってきました。「強い

### 耐性アップ

需要の波に左右されない=耐性アップの6つの鍵として「ふとこ深く」「身軽に」「柔軟性」「分散」「俊敏」「質の向上」のキーワードを設定しています。LE業界はボラティリティが高い業界だけに、いかにして「抗変動性」を高めて、安定的な成長性を手に入れるかが大きな課題と考えています。

### 競争力強化

LE世界No.1を目指すために、競合メーカーが10年かかっても追いつけないくらいの差をつけたい。そこでタダノグループのコアコンピタンス(=競争力の源泉)である「製品品質」と「(部品を含めた)サービス力」に、「商品力」と「中古車価値」を加えた「四拍子そろったメーカー」を目指しています。

単純に考えれば、製品の販売価格を上げて原価を下げれば、利益は高まります。しかし事はそう簡単ではありません。売価を上げて、競合との比較でシェア・売上が落ちては意味がありません。いかに売価を維持・改善しながらシェアを高めていくか。お客様の目線で見ると、本当に世の中とお客様の「お役に立つ機械・サービス」を当社が提供できるかどうか。そして、安全で安心して、しかも効率良く使っていただける付加価値を創造できるかどうかだと思います。ライバルとの比較の中で「四拍子がバランス良くそろったメーカー」になりたいと考えています。

会社は「良い会社」の一つの側面に過ぎません。「良い会社」を目指すためには、まずは「強い会社」にならなければと考えていたのですが、バランスを欠いていたことも事実です。創業100周年を迎えたことを大きな節目として、そして、先ほどの話の通り、次のステップに向けた材料がそろってきたこともあり、中計(20-22)からは、もう少しバランスの取れた基本方針とすることにしました。

それは、当社の事業ピラミッドの2段階目「ビジョン=世界に、そして未来に誇れる企業を目指して」の中にある「誇れる企業」を目指すということです。タダノが「誇れる企業」になるためには、ステークホルダーであるお客様・取引先・株主・投資家・社会それぞれから評価・支持され、それを継続できる企業でなければなりません。そして、何よりもタダノで働く社員が自社に誇りを感じられるような企業でありたいと考えています。

そのためには、ESG・SDGsを今まで以上にもしっかりと明確に企業経営に取り入れていこうと考えています。

### 目の前の闘い・時代との闘い

これからは、「目の前の闘い」と「時代との闘い」、私たちはこの二つの闘いを同時に制していかなければいけません。まず「目の前の闘い」に打ち勝つ。毎期・毎月目の前の闘いを制し続けなければ明日はありません。しかしその連続だけでは、今日を生き延びることはできるかもしれないが、未来はないのではないかと、思うのです。

IoTやAIの活用が急速に広がり、自動車やトラックは、内燃機関の搭載を止めて電気で動く方向に進もうとしています。技術的変化が世の中を変える、とても大きな変革期を迎えつつあります。

この「時代との闘い」を制していかなければ私たちの未来はありません。

### 大切にしたい「志」

私たちは将来に向かって何をやりたいのか?と言いますと、長期的な利益成長ということになります。しかし、それはあくまでも目標であって目的ではありません。経営理念である「創造・奉仕・協力」を実現すること、それを永遠に求め続けることが当社の事業目的です。この経営理念やビジョン・コアバリューは不変のものなのです。

「社長がこう言ったから」あるいは「上司がこう言ったから」ということではなく、この不変の理念・コアバリュー、そしてその時々会社が決めた長期目標・方針に忠実である会社でありたい、と考えています。上司が言ったことに対して、部下が「それはうちの方針に合っていないよな?」と正しい方向に意見して議論できるような会社でありたいですね。

創業当時の「世の中のお役に立つものを提供したい」「事業を通じて世の中に貢献できる企業でありたい」という思いを大切にしていきたいと考えています。社内では昔から言われてきた「儲かると儲けるは違う」という話をしています。「儲ける」=利益を目的にすると会社は歪んでしまいます。ドラッカーは顧客の創造と説明しましたが、「世の中のお役に立つ、貢献することで、自然と儲かる会社」であることが大切。創業当時から続く「志」を今後も大切にしていきたいです。



# 価値創造プロセス

Value Creation Process

## INPUT

LEに関する60年以上の実績  
(1955年に日本初の  
油圧式トラッククレーンを開発)



コアテクノロジー  
構造体技術  
動作制御技術  
走行体技術など



高度な生産技術  
(高張力鋼板の加工・溶接など)  
グローバル生産体制



学習し、成長し続ける組織文化  
(人材育成への注力)



「中期経営計画」による  
3年ごとの戦略設定



|                            |   |  |
|----------------------------|---|--|
| 設備投資<br><b>14,458</b> 百万円  | 研究開発費<br><b>6,918</b> 百万円                   | 特許所有件数<br><b>570</b> 件   |
| 従業員数<br><b>3,405</b> 名(連結) | 海外ネットワーク<br><b>100</b> 拠点以上<br>(グループ会社・代理店) | エネルギー消費<br><b>5,665</b> キロリットル<br>(原油換算・日本)<br><small>(2018年度)</small> |

ビジョン「世界に、そして未来に誇れる企業を目指して」

私たちタダノグループは、全てのステークホルダーの期待に応え企業価値を最大化します。また「学習し、成長し続ける組織文化」を構築します。

より付加価値の高い製品・サービスを社会に提供し、お客様に選ば  
れる・選ばれ続けるメーカーになるために、私たちは「商品力」「製品  
品質」「(部品を含めた)サービス力」「中古車価値」の4つが高いレベル  
でバランス良く整った「四拍子そろったメーカー」を目指しています。

## OUTPUT

- 建設用クレーン  
・オールテレーンクレーン  
・ラフテレーンクレーン  
・トラッククレーン  
・伸縮ブーム式クローラクレーン
- 創造・奉仕・協力  
(経営理念/事業目的)  
●C+SQE(コアバリュー)  
**P03-04**
- Demagクレーン事業の買収  
**200**億円以上  
**P10-26**
- 新工場への投資  
**200**億円以上  
**P10**
- 新製品の発売  
**14**機種  
(国内最大のラフテレーンクレーンなど)  
**P17-24**
- ステークホルダーとの  
継続的で良好な関係構築  
**P25-32**
- 経営の透明性・健全性・  
効率性  
(コーポレート・ガバナンス)  
**P33-34**
- 中古車  
**4**か所  
(バンコク・インド・モスクワ・チリ)  
**P43-44**

商品力

製品品質

(部品を含めた)  
サービス力

中古車価値

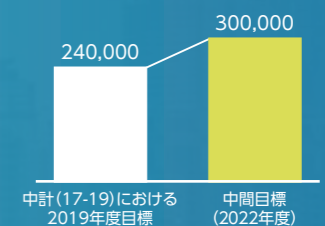
コアバリュー「C+SQE(SQE based on C)」

私たちタダノグループが絶対に譲れない価値観として追い求めるものです。コンプライアンスは、すべての土台であり、安全第一・品質第二・効率第三という優先順位はどんな時も変わりません。ただし、三番目の効率を抜きにして企業経営は成り立ちません。そのためにも「安全第一」「品質第二」を何としても確保しなければなりません。安全も、品質も、効率も、プライアンスという土台がないと確保できないと考えています。

## OUTCOME & PLAN

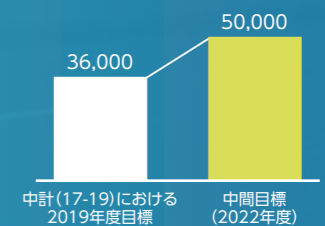
連結売上高 (単位:百万円)

**188,451** 百万円



営業利益 (単位:百万円)

**15,835** 百万円



海外売上高比率

**48.5%**





# Value Chain

バリューチェーン

当社ではバリューチェーンを「創る・造る・届ける・サービスする」という言葉で表現し、総合的品質経営(TQM)に取り組んでいます。タダノの製品が今後もお客様に選ばれ続けるよう、従来からの強みである品質・(部品を含めた)サービス力に磨きをかけ、商品力と中古車価値をさらに高めることで「四拍子そろったメーカー」を目指しています。

## 創る

研究・設計・開発

タダノの設計の根底にあるのは、徹底したお客様目線です。現場ではどのように製品が使われているのか? どういう機能があればお客様に喜んでいただけるのか? タダノの開発者は現場に足を運び、自分の目と耳で作業現場を見て、お客様の生の声を聞いて考えます。

過酷な作業現場でも壊れにくい、閑静な住宅街でも静かに作業できる。本当の意味でお役に立つ製品を作りたい。高品質で高性能な製品作りへの強いこだわりを支えるのが、開発に直結した生産現場との抜群の連携です。

またドイツ・アメリカ・タイ・インドのそれぞれ海外グループ会社とのものづくり協働から生まれるグローバルな開発体制は、今後も進化を続けます。お客様の期待を超える製品を創りたい。タダノの挑戦に終わりはありません。

Message



取締役執行役員専務  
開発部門担当、SVE推進部門・インド事業部門統括 **奥山 環**

「Lifting your dreams~全ては顧客と社会のために~」という技術方針の下、開発部門では現在から未来を見つめ、今必要とされている製品を開発し、技術研究部門では未来から現在を見つめ、将来の安全で生産性の高い革新的な建設ソリューションを研究しています。未来に提供すべき機能として「安全な」「高く・速く・速く」「意のままに動く(自動、知能)」「作りやすい・壊れにくい・直しやすい」「経済性」の5つを定め、これらを実現するための取り組みを進めています。

## 造る

生産・購買・品質安全

溶接業からスタートしたタダノには、長年受け継がれ、磨きをかけてきた「技術」があります。その技術を伝え、育てていくのは「人財」です。特に複雑で繊細な機械のクレーンは、部品と部品のすり合わせなど経験工学的な要素が多く、「人の技術や技能の向上」が品質の大きな鍵になります。当社では「専門技能の習得」と「多能工化」という二つの側面から人財育成を推進。専門技能の習得による品質向上と、多能工化による効率的な生産を実現しています。一方で、更なる生産性を求め、新しい設備や生産技術の開発にも力を入れています。

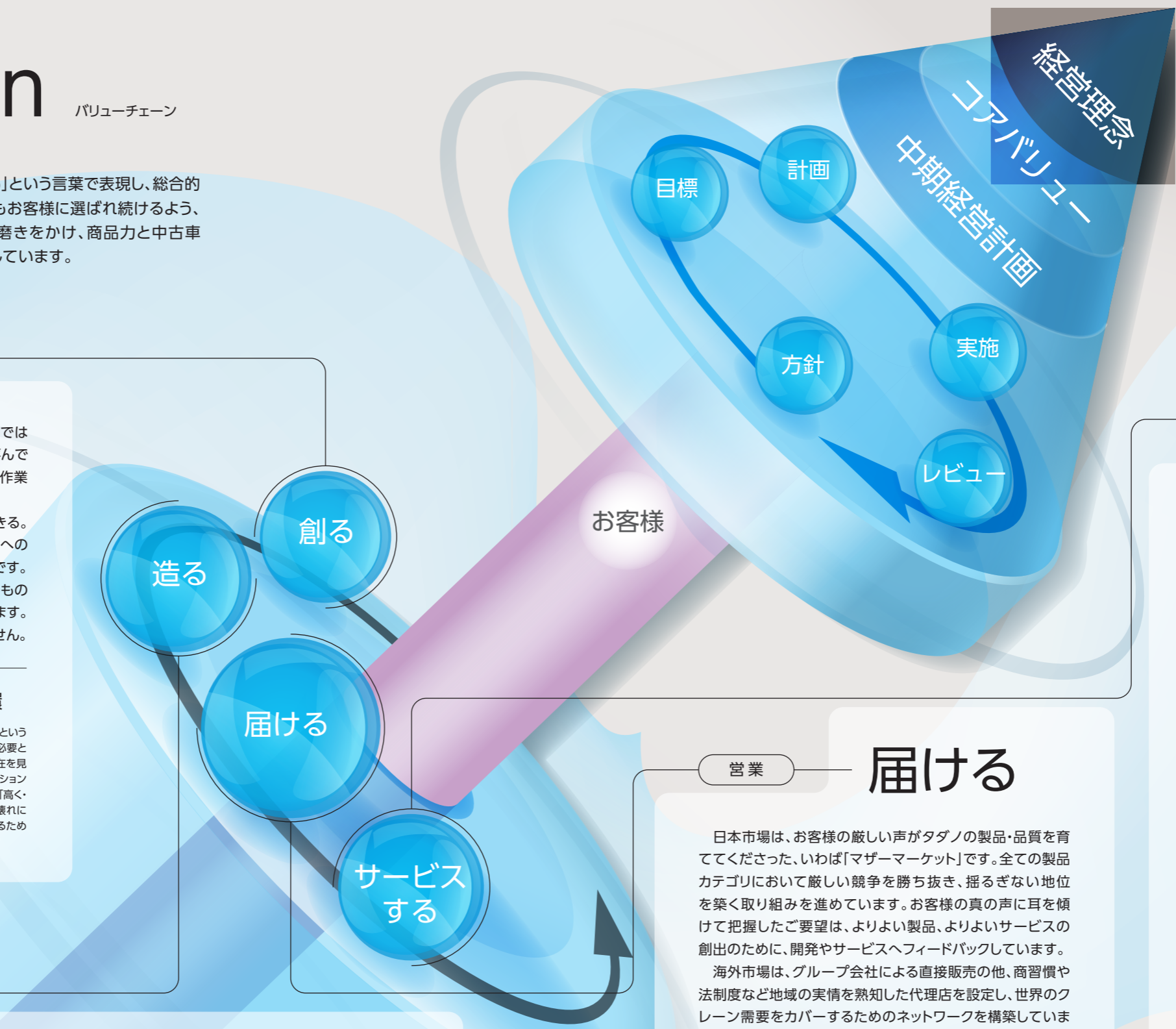
また、日本をマザー工場に位置づけながら、ドイツ、アメリカ、タイ、インドとそれぞれの市場に近いところで、それぞれのニーズにあった製品を生産し、生産効率とコスト競争力に優れたグローバル生産体制を構築しつつあります。「C+SQE(SQE based on C)」を追求するコアバリュー活動を各社に展開するなど「世界統一品質」を目指すための取り組みも強化しています。これらの取り組みがタダノグループの品質を支えています。

Message



取締役執行役員常務  
生産部門担当、購買部門・品質安全部門・タイ事業部門・中国事業部門統括 **西陽一朗**

当社は、日本・海外の生産拠点において製品セグメント別に生産を集中させ、更なる品質と生産効率の向上に力を注いでいます。今年8月には「Next Generation Smart Plant(人と機械が調和し、次世代につながるスマート工場)」をコンセプトとした香西新工場が稼働を開始しました。「世界に誇れるクレーン工場」を目指して、生産性をさらに向上させるとともに、志度工場においても今後、生産性を高めるための再編に取り組むたいと考えています。



Message



取締役執行役員専務  
企画管理部門・ICT部門統括 **氏家 俊明**

世の中が複雑・高速・極端に変化する時代に、グループ全体が最大限の力を発揮できるような新たな制度や仕組みを構築しています。当社には多数の外国籍社員が在籍していますが、ダイバーシティをより推進するため、2016年に女性活躍推進の行動計画を策定し、女性の計画的な採用と職場環境の整備を進めています。すべてのステークホルダーから信頼される企業を目指し、今後はガバナンス体制の更なる強化にも取り組んでいきます。

CS  
(カスタマーサポート)

## サービスする

タダノのサービスは、私たちが提供した製品の修理などを行うアフターサービスと、安心して使うために点検・整備などを行うビフォーサービスに分かれます。製品が故障する時間=ダウンタイムはお客様のビジネスの損失に直結します。当社では「ここまでやってくれるのか!」とお客様に言っていただけるような「感動サービス」の提供に取り組んでいます。

日本では10支店と23営業所に加え、全国345か所の認定サービス工場と937名の認定サービス員によるサービス体制を構築。また神戸市のグローバルパーツセンターをはじめ、7か所に部品センターを設置しています。

海外では直接サービスに加え、代理店が世界をカバー。体制を整えるとともに、サービスの質を高めるための取り組みも充実。現地で技術講習会を開いているほか、日本のトレーニングセンターで体系的・専門的な教育を実施。またシンガポールにパーツセンターを設置し、部品デリバリータイムの大幅な短縮を図っています。

営業

## 届ける

日本市場は、お客様の厳しい声がタダノの製品・品質を育ててくださった、いわば「マザーマーケット」です。全ての製品カテゴリにおいて厳しい競争を勝ち抜き、揺るぎない地位を築く取り組みを進めています。お客様の真の声に耳を傾けて把握したご要望は、よりよい製品、よりよいサービスの創出のために、開発やサービスへフィードバックしています。

海外市場は、グループ会社による直接販売の他、商習慣や法制度など地域の実情を熟知した代理店を設定し、世界のクレーン需要をカバーするためのネットワークを構築しています。直販、代理店の双方でお客様とのコンタクトを密接にしてお客様の真のニーズをつかみ、満足をお届けできるよう努めています。

Message



代表取締役副社長  
営業統括部門担当、CS部門・国内営業部門・海外事業部門・欧州事業部門・中古車事業部門統括 **鈴木 正**

当社は営業・サービス活動を通じ、機械の生涯にわたってお客様にご満足いただけるよう、ダウンタイムの極小化と商品価値の最大化に取り組んでいます。日本のお客様には引き続きご満足いただけるよう、また海外ではプレゼンスを強化すべくグローバルネットワークの拡充に取り組んでいます。今後は戦略的なM&Aを通じ、当社のラインナップに新たな商品を加え、幅広いお客様のニーズにお応えすることにも取り組んでいきます。

# 事業セグメント

## 建設用クレーン

グローバルなニーズに応えるフルラインナップ



GR-600EX

## 製品の特長

何十トン、時には数百トンを超える重量物を軽々と持ち上げ、安全にスムーズに移動させるのは、大型の建設用クレーンだからできる仕事。鉱山や油田などの資源・エネルギー開発プラント、

ビルや橋梁、大規模な都市開発などの過酷な現場でハードに働く建設用クレーンにとって何より重要なのは、安全性と信頼性です。事故はいうまでもなく、ちょっとしたトラブルによるダウンタイ

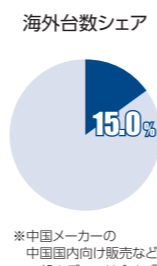
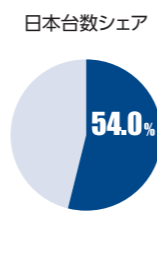
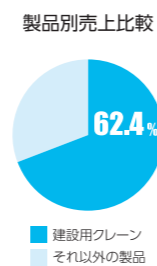
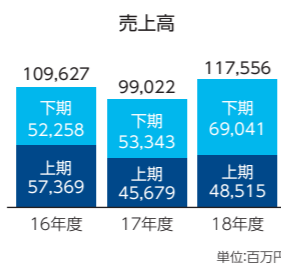
ムもお客様のビジネスに大きな影響を与えてしまいます。極寒のカナダや酷暑の中東などの過酷な作業現場でこそ、信頼性から選ばれているのがタダノの製品です。

## 売上高

日本向け売上は、需要が減少する中、新モデルを中心とした大型機種種の増販に取り組み、422億5千万円(前期比110.7%)となりました。

海外向け売上は、中東向け売上は大幅に減少しましたが、中東を除くすべての地域で売上が増加し、753億6百万円(前期比123.8%)となりました。

この結果、建設用クレーンの売上高は1,175億5千6百万円(前期比118.7%)となりました。



## 社員インタビュー



### 「ラフテレーンクレーンGR-1000N」開発にあたって

公道走行可能な国内最大の100トン吊りラフテレーンクレーンを2018年9月に発売することができました。「競合他社を凌駕する製品を」という目標のもと、早期市場投入も優先事項の一つであったため、日程がタイトでしたが、購買先様はじめ関係各位のご協力のもと計画を達成できました。

大きな課題の一つが「軽量化」でした。総重量を日本で公道走行可能な41.295トン以下とするため、ブームや旋回台など複数のアイテムで軽量化にトライしました。私が担当したキャリアフレーム設計では、基本断面の最適化や高強度材料の採用により、吊上性能を大幅に向上させながら従来の70トンクラスと同等の重量、サイズを維持することができました。

私は入社以来、大型クレーンのブーム、旋回台、キャリアフレームと経験を重ねてきました。これからも社会と顧客に貢献できる、より安全でより高品質な製品の開発を目指していきたいと考えています。



LE開発第一部  
大型開発第1U 主任  
関 将吾

## LINEUP

### ラフテレーンクレーン

タダノの技術の粋を集めた主力製品。海外では大規模プラントの建設・メンテナンスにも使われています。狭い現場でも機敏に対応できるコンパクトさと機動力、操作性を備えており、世界中で高い評価をいただいています。

日本の建設用クレーンの中心機種で、日本の総需要の91%、北米総需要の54%を占めます。



生産拠点:香西工場(日本)



生産拠点:タダノ・エスコーツ  
インドア Pvt. Ltd.(インド)



生産拠点:志度工場(日本)

日本向け 8機種 13トンから100トン吊り  
海外向け 11機種 13トンから145トン吊り



GR-1000N

### オールテレーンクレーン

都市開発や高速道路、橋梁といったインフラ整備の現場などで活躍する大型クレーンです。遠距離走行性<sup>(\*)</sup>に加え、ステアリングの特長から小回り性にも優れています。不整地から高速走行まで対応できる走行性を実現するとともに、数百トンの荷を難なく吊り上げる能力を備えています。日本の総需要の8%、欧州総需要の85%を占めます。

(\*) 欧州では分解走行が不要ですが、日本での一般道走行時は分解搬送が必要です。



生産拠点:タダノ・ファウン GmbH(ドイツ)

日本向け 7機種 100トンから550トン吊り  
海外向け 11機種 40トンから400トン吊り  
(日本向けの一部製品は日本で生産)



ATF400G-6

### トラッククレーン

汎用または専用トラックに架装するクレーンです。日本では高速道路走行が可能のため、レッカー機能を持たせて緊急時に機敏に対応。海外では高速走行性をもつ大型クレーンとして使われ、メンテナンスに対するコストパフォーマンスの高さから特に新興国で人気です。



生産拠点:香西工場(日本)



生産拠点:志度工場(日本)

日本向け 3機種 13トンから35トン吊り  
海外向け 6機種 30トンから75トン吊り  
(海外向けの一部製品はドイツで生産)



GT-750EL

### 伸縮ブーム式クローラクレーン

広大なアメリカで、泥濘地を含めたさまざまな環境で効率よく作業するように開発されました。クローラキャリアの低重心の利点を活かし、荷を吊ったままの走行にもその強さを発揮。高さに余裕のないトンネルやプラント、オイルタンクなどの建設現場でも活躍します。



生産拠点:タダノ・マンティス Corp.(米国)

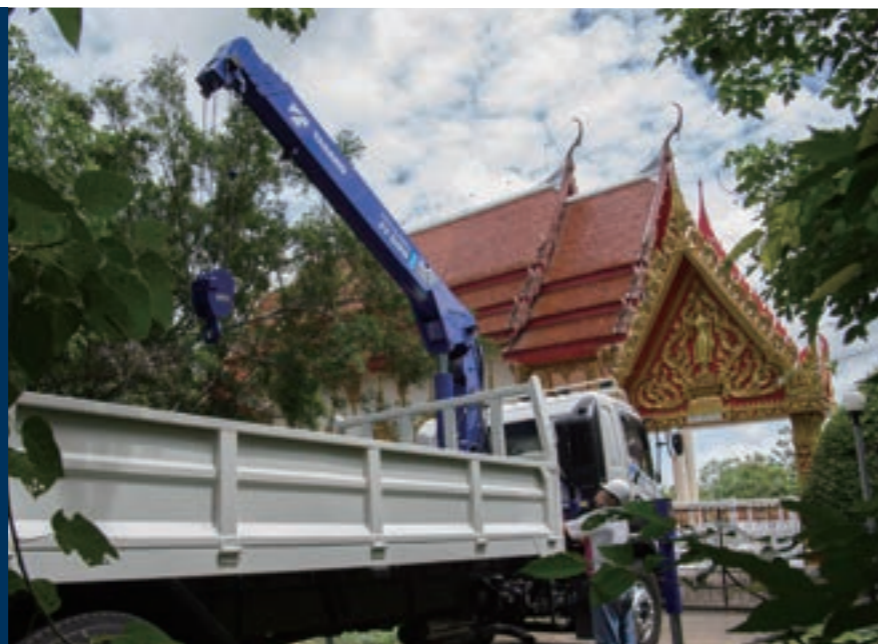
海外向け 11機種 27トンから120トン吊り  
(海外のみ販売(米国で生産))



GTC-1200

# 車両搭載型 クレーン

使いやすさと高機能で選ばれる



TM-ZT500

## 製品の特長

車両搭載型クレーン(カーゴクレーン)は運輸業や造園業、建設業など、幅広い業種のお客様の荷役作業にお使いいただいている一番身近なクレーンです。カーゴクレーンに求められるのは、最少の人数で、積載・運搬・荷下ろしを安全に、簡単に行える操作性です。タダノでは安全性と効率を高めるために、クレーンの状態を見ながら操作

できる液晶デジタルラジコンを早くから採用。また、クレーン業界で初の「アイドリング・ストップ」機能を実現し、省エネ・環境性能を飛躍的に高めることに成功しました。

カーゴクレーンのほかにも、さまざまなお客様のニーズに対応できる「目的別製品」も製造しています。たとえば、道路と鉄道の線路を走行できる

「軌道陸上兼用車」など、安全性や効率を高めて社会やお客様の課題解決に貢献するさまざまな目的別製品で、LEの新たな領域を開拓しています。

## 売上高

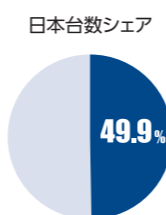
日本向け売上は、安全装置法制化と小型トラックの排ガス規制による駆け込み需要により、186億5千8百万円(前期比103.8%)となりました。

海外向け売上は、東南アジア・中東向け販売体制を強化し、20億8百万円(前期比117.7%)となりました。

この結果、カーゴクレーンの売上高は206億6千7百万円(前期比105.0%)となりました。

| 売上高          |              |              |
|--------------|--------------|--------------|
| 16年度         | 17年度         | 18年度         |
| 下期<br>10,098 | 下期<br>9,603  | 下期<br>11,062 |
| 上期<br>9,534  | 上期<br>10,074 | 上期<br>9,605  |

単位:百万円



## 社員 インタビュー



### 「カーゴクレーンZest EXシリーズ(以下ZX)」開発にあたって

同シリーズは、2018年の安全装置法制化対応(過負荷防止装置の標準装備)によるモデルチェンジであるとともに、「卓越した安全性」「洗練された操作性」「快適な作業性」をコンセプトに開発したニューモデルです。今回は大物部品の配置にまで改良を施し、限られたスペースの中でアウトリガ張出幅を拡大し、安定性能向上を実現することができました。その結果、ZX364モデルで最大約35%、ZX294モデルで最大約20%も側方作業性能が向上し、現行機を大きく上回るパフォーマンスを実現できました。

私は入社時から油圧・電装機器設計を担当しており、今回のZXの開発では初めて停止仕様の過負荷防止装置導入や、油圧制御・電装部品の刷新に携わることができました。これからもお客様に満足いただける製品の実現を目指したいと考えています。



LE開発第二部小型開発  
佐藤 亮輔

## LINEUP

### カーゴクレーン

#### 日本向け

日本では1963年にTMシリーズを発売以来、多くのお客様にカーゴクレーンをご愛顧いただいています。

生産拠点は2007年に開設した香川県・多度津工場です。環境にも配慮しており、ZE600シリーズからアイドリングストップ機能をオプション設定。また、「安全装置法制化」に対応し、2018年に新モデル「Zest(ゼスト)EX」シリーズを発売しました。



生産拠点:多度津工場(日本)



ZX294

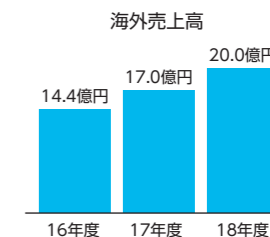
#### 海外向け

2012年にタイに当社として初のカーゴクレーンの海外生産拠点を開設しました。販売先としては、東南アジア、中東を主要なターゲットとしています。

現在は、吊り上げ能力10トンクラス、8トンクラス、5トンクラスの計3機種のカーゴクレーンを生産し、市場の状況を見て順次生産機種を拡大する予定です。今後の需要動向により第2工場の建設も視野に入れています。



生産拠点:タダノ・タイランド Co., Ltd.(タイ)



### その他目的別製品

カーゴクレーン以外にも、多種多様なニーズに対応する製品を開発しています。千葉工場では、自動車運搬車(スライドキャリア/スーパーセルフローダ)を製造しており、日本有数のシェアを誇っています。また「軌道陸上兼用車」は、現場近くの踏切でタイヤから鉄輪へと移動手段を切り替え、スムーズに現場へ急行できる

鉄道工事に用いる作業車です。ほかにも、重機などの建設機械を積載し運搬できる産業用車両運搬車(セルフローダ)や、海上で活躍する船舶専用油圧クレーン(マリンクレーン)など、お客様のさまざまな課題解決に応えています。



スライドキャリア/スーパーセルフローダ  
生産拠点:千葉工場(日本)



船舶専用油圧クレーン  
(マリンクレーン)

ZR500MRシリーズ

産業用車両運搬車  
(セルフローダ)



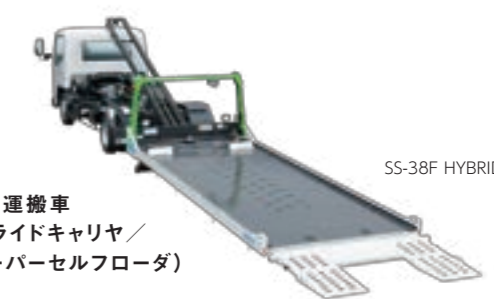
SL-155R

軌道陸上兼用車



TM-ZE295DW(S)

車両運搬車  
(スライドキャリア/  
スーパーセルフローダ)



SS-38F HYBRID

# 高所作業車

安全性・利便性・快適性を追求する



BT-200

## 製品の特長

高所作業車は「人を乗せて作業する機械」であり、安全性、利便性、快適性がとりわけ重要になります。

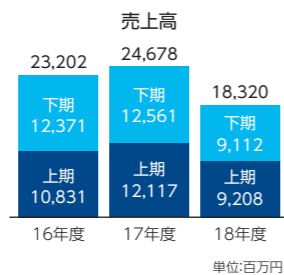
当社では、先進の制御技術で操作の自動化、操作性の向上、環境性能の向上(低騒音、省エネ、

CO<sub>2</sub>排出量削減)を推進しています。特に一つのレパーでデッキが垂直移動・水平移動ができる世界初の「4軸協調制御」技術を搭載したスーパーデッキは、高所作業車に新しい歴史を開いた画期的な製品として高く評価されています。

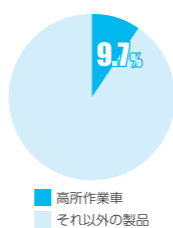
また、豊富なラインナップでさまざまなお客様の要望にお応えしています。

## 売上高

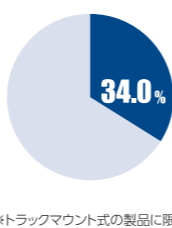
インフラ点検補修用途のニーズを背景にしたレンタル業界向け売上が一巡、電力電工向け、通信業界向けも売上が減少し、高所作業車の売上高は、183億2千万円(前期比74.2%)となりました。



製品別売上比較



日本台数シェア



## 社員インタビュー



### 品質改善へのあくなき取り組み

タダノでは、開発の初期段階から、お客様に満足をお届けできるよう品質に最大限の配慮をしています。市場投入後に品質問題や不具合が発生した場合も、できるだけ迅速な対応と改善に取り組んでいます。具体的には、設計・開発の上流工程に始まり、生産・購買、お客様に近い営業・サービスまで品質情報を一元管理・共有し、スピーディに要因解析・対策実施を進められるよう社内システムを整備しています。

たとえば、2018年度における高所作業車の「納入初期クレーム」は2017年度に引き続いて減少し、前年度比27.7%改善することができました。まだまだ取り組むべきことは多いですが、今後も再発防止・未然防止のために真因を追求し、迅速かつ円滑な情報共有と水平展開を図り、お客様に感動いただける「感動品質」を目指すべく、グループを挙げてこれからもチャレンジを続けていきたいと考えています。



品質安全部品質保証Gアシスタントマネジャー  
東 英治

## LINEUP

### スカイボーイ

作業床に2名程度搭乗できるスタンダードな高所作業車シリーズです。トラック式は機動性に優れ、現場間の移動が容易です。ホイール式は走行部分に専用のゴムタイヤを使用しているため走行路盤を傷つけることなく現場内での連続作業が可能で、造船工事などで威力を発揮します。

|             |     |                |      |
|-------------|-----|----------------|------|
| 電気工用(トラック式) | 3機種 | 一般工用(トラック式)    | 12機種 |
| 通信工用(トラック式) | 5機種 | 一般・造船工用(ホイール式) | 2機種  |



AT-146TE

電気工用(トラック式)



AT-110TTE(D)

通信工用(トラック式)



AT-220TG

一般工用(トラック式)



AW-370TG

一般・造船工用(ホイール式)

### スーパーデッキ

最大積載荷重1,000kgの大型作業床が特長の高所作業車です。機材や資材を積んでの作業に威力を発揮します。独自の「4軸協調制御」技術により、水平・垂直・斜め上下移動が可能。操作性にも優れ、さまざまな現場で効率的な作業を実現します。

5機種



AT-150S

### ハイパーデッキ

地上40mの高さでも作業が可能な超高所作業車です。独自の制御システムで操作性に優れ、目的のポイントにもスムーズにアプローチできます。超高所・超広域での多彩な作業を強力にバックアップします。

1機種



AT-400CG

### その他目的別製品

高所分野でも、多種多様なニーズに対応する製品を開発しています。例えば、高架道路・橋梁点検車「ブリッジチェッカー」、災害復旧・夜間工事、夜間イベントなどで活躍する照明車「メガルクス」、鉄道工事用の作業車である「軌道陸上兼用車」など、安全性や効率を高めて社会やお客様の課題解決に貢献するさまざまな製品を開発し、LEの新たな領域を開拓しています。

#### 高架道路・橋梁点検車(ブリッジチェッカー)

3機種



BT-400

#### 軌道陸上兼用車

1機種



AT-100SDW

#### 照明車(メガルクス)

1機種



LS-1800

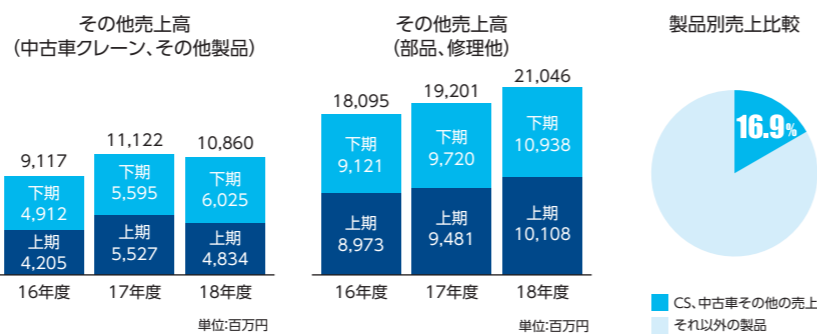
## その他

サービス力の強化と  
中古車価値の  
維持・向上を目指して



## 売上高

製品の修理や部品販売などのCS(カスタマー・サポート)および中古車販売その他の売上高は、ストックビジネスへの取り組み強化により、319億7百万円(前期比105.2%)と、過去最高を更新しました。



## 四拍子そろったメーカーへ

当社は「商品力、製品品質、(部品も含めた)サービス力、中古車価値」の四拍子そろったメーカーを目指しており、新製品の商品力、品質の向上はもとより、未永く製品を活用していたく取り組みも進めています。それが(部品を

含めた)サービス力の強化と中古車価値の維持・向上です。

製品のライフ・サイクル・バリューを高める取り組みの一つに、保守部品の供給があります。グループの部品供給のハブ拠点である神戸市のグローバルパーツセンターでは、7万を超えるアイテムと、ピース数でおよそ100万点の部品を保有しており、国際貿易港や国際空港に近い立地を活かして、日本・海外ともにデリバリータイムの短縮を実現しています。日本6か所の部品センターでは、グローバルパーツセンターとの連携による最速での部品出荷のほか、永年の実績に基づいて担当エリアごとに需要の多い部品を常時ストックし、製品のダウンタイムの

短縮に一翼を担っています。2018年8月には北海道部品センターを移転・拡大、同年11月にはシンガポールにパーツセンターを設立し、日本・海外ともに更なるデリバリータイムの短縮を進めています。

また再生事業にも注力しています。特殊製品のリニューアル、コンポーネント部品の調整や修理、クレーンフレームの亀裂など構造物修理、生産終了部品の代替により、ダウンタイムの短縮や修理費用の抑制を実現して、製品寿命を長く、価値を維持する取り組みを行なっています。

これら取り組みの成果は徐々に現れており、当社製品の中古車が高く評価されている要因の一つとなっています。



## 「感動サービスの提供」に向けた取り組み

クレーンのダウンタイムはお客様のビジネスの損失に直結するため、当社では「ここまでやってくれるのか!」と褒めていただける「感動サービスの提供」に取り組んでいます。CS部門のミッションは「お客様の『確実な安全作業』と『商品価値の最大化』のために“感動サービス”をお届けします」。ミッション達成に向け、「ビフォーサービス」「アフターサービス」「安全教育」の3つの分野に注力しています。

ビフォーサービスでは、HELLO-NETを活用し

た、お客様、サービス工場、当社の3者間でメンテナンス状況や整備履歴を共有する、「タダノメンテナンスパック」や高度化したエンジンのメンテナンスに特化した「TADANOエンジンケアパック」の普及により、製品のダウンタイムや整備不良による事故の減少を目指しています。

アフターサービスでは、日本では10支店と23営業所に加え、全国345か所の認定サービス工場と937名の認定サービス員によるサービス体制を構築しています。海外では直接サービス

に加え、100か所を超える代理店が世界をカバーしています。体制の整備とともに進めているのが、サービスの質を高める取り組みです。現地で開催する技術講習会のほか、本社の最新トレーニングセンターでの体系的な教育で、日本・海外のサービス員の人財育成を進めています。

また2018年2月には、VR(バーチャルリアリティ/仮想現実)を活用した体感型の安全教育を導入するなど、作業中の事故防止にも力を入れています。



VR(バーチャルリアリティ/仮想現実)を活用した体感型の安全教育

## 現場のクレーンとお客様、タダノをつなぐHELLO-NET

通信衛星や携帯端末などを用いてクレーンの稼働状況をリアルタイムで手軽に把握。故障の前兆をキャッチし、事前にメンテナンスする「ビフォーサービス」を可能にします。ラフテレーンクレーンを中心に標準搭載化を進めており、日本で約11,700台、海外では約5,400台が稼働。現在はオールテレーンクレーンや高所作業車へも展開しています。



## その他製品

移動式クレーンや天井クレーンが使用できない屋内設備・クリーンルーム・トンネルなどの特殊な環境においても、重量物の搬入搬出・据付作業などを安全・効率的に実施しています。



門型油圧リフター(TB-1000)



オールテレーンクレーン着脱リフター(ATF400G-6のブーム着脱作業例)

# ステークホルダーエンゲージメント

## お客様への約束

### 研究開発の取り組み

お客様にとって最高の製品をお届けするために、タダノの開発者は、現場に足を運び、自分の目と耳で現物・現実を確認し、真のお客様の声を聞いて考えます。「お客様のお役に立つ製品を作りたい。使いやすさと安心感を提供し続けたい。」そんな思いが、新しい機能の開発に挑戦する原動力となっています。

### 京都大学と包括連携共同研究の契約を締結

当社の技術と、京都大学の機械工学・社会学・都市工学・情報科学等に関する最先端の学術的知見を組み合わせるべく、2018年3月に契約を締結しました。建設作業の安全性と生産性を向上させるイノベーション創出を目指します。



### 低温試験棟の開設

製品の活躍がグローバルに広がる中、極寒・灼熱の地では想定より動作が遅くなったり、予期せぬ現象が起きることもあります。コアバリューに更なる磨きをかけるためにも、過酷な温度環境の中で製品を動かして試験できる設備が必要と考え、2016年、志度工場に建設しました。室内温度はマイナス40度からプラス60度まで変化し、さまざまな試験が可能です。



### ベンチャーキャピタルファンドへ出資

みやこ大イノベーション投資事業有限責任組合(みやこキャピタル㈱)運営(京都府)に、計4億円を出資しております。独自技術を持つ研究開発型ベンチャー企業とのネットワークを獲得し、オープンイノベーションに取り組んでいきます。

## グローバル生産体制と品質向上への取り組み

### グローバル生産体制を構築

日本をマザー工場に位置づけながら、ドイツ、アメリカ、タイ、インドと、それぞれのニーズにあった製品を生産し、生産効率とコスト競争力に優れたグローバル生産体制を構築しています。日本流のものづくりを海外拠点でも浸透させて「世界統一品質」を作り、タダノブランドへの信頼を高めることを目指しています。また部品を相互に供給するクロスソーシングを推進し、品質と効率の更なる向上に取り組んでいます。

2019年8月には、海外向け建設用クレーンおよびブーム・シリンダ等主要部品の生産能力を高めるため、香西工場が稼働を開始しました。



### 品質向上への取り組み

複雑で繊細な機械のクレーンは経験学的な要素が多く、「人の技術や技能の向上」が品質の大きな鍵になります。「専門技能の習得」と「多能工化」という二つの側面から人材育成を推進し、品質向上と多能工化による効率的な生産を実現しています。

当社は1996年に品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を取得しました。同時に開発の初期段階から、また万市場で品質問題が発生し

た場合の迅速な対応に至るまで、お客様に満足をお届け続けられるように業務プロセスを革新しました。生産部門では、2007年から「コアバリュー活動」を導入し、管理ボードの運営などによる日々の品質状況のみえる化と改善への取り組み(PDCAサイクル)を、全生産拠点で展開しています。



## Demagクレーン事業の買収

2019年2月23日に、Terex Corporation(米国)よりドイツに本拠地を置くDemagクレーン事業を買収することを発表し、必要な各種手続きを経て、2019年7月31日をもって買収が完了しました。Demagクレーン事業は、200年近い歴史を有し、大型のオールテレーンクレーンやクローラクレーンで世界有数のブランドとして定評があります。株式取得及び事業譲受を含む同買収によって、新たにクローラクレーンを当社グループのラインナップに加えるとともに、オールテレーンクレーン事業の更なる拡充を図ることで、幅広いお客様のニーズにお応えすることが可能になります。



クローラクレーン CC 8800-1 TWIN

オールテレーンクレーン AC 1000-9



Day 1 イベントでの社長スピーチ

新会社となるタダノ・デマグ GmbHでは8月1日から2日にかけて、「Day 1 イベント」をドイツ・ツヴァイブリュッケンで開催し、LE業界を革新させる新たなパートナーシップが始動しました。本イベントには、世界各国から約1,200名の社員が参加し、長期目標である「LE世界No.1」の達成に向け、結束を誓い合いました。

## 「bauma(バウマ) 2019」への出展

ドイツ・ミュンヘンで3年に一度開催される「バウマ」は、世界最大規模の国際建設機械・建設資材製造機械・鉱業機械・建設車輛・関連機器専門見本市です。2019年4月8日から14日に開催された「バウマ2019」には、出展企業数は60か国以上から約3,700社、ご来場者数は200か国以上から約62万人にも上りました。

当社ブースでは、「WHEN SUCCESS IS YOUR ONLY CHOICE」をキーメッセージに、オールテレーンクレーン新機種「ATF-120-5.1」「ATF-100-4.1」を含む9機種を出展しました。当社製品の安全・品質は、ドイツはもとより世界各国のお客様に高く評価していただきました。



## 今後の技術展望を展示

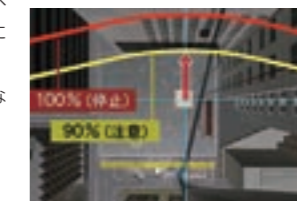
新しい試みとして、「Crane Operation Redefined(クレーンオペレーションリディファインド)」をコンセプトに、ブース内のイノベーションエリアにて業界初の技術(製品未搭載)である「Lift Visualizer(リフトビジュアライザー)」「Lift Compass(リフトコンパス)」を含む技術展示を行いました。

クレーン作業には、オペレーターが直接吊荷を見ることができない状況が多くあります。リフトビジュアライザーは、吊荷監視カメラの映像を利用し、遠方の吊荷や死角に入って見えない吊荷を真上から監視できるだけでなく、クレーンの作業領域をリアルタイムに表示することで、安全なクレーン作業を行える技術です。リフトコンパスは、オペレーターがキャブから出て、吊荷の状況を直接確認しながら操作レバーを倒した方向に吊荷を移動できる遠隔操作技術です。

ご来場者には、VRシステムを用いて体感いただき、今後の技術展望について有意義な意見交換の場となりました。



リフトビジュアライザー



リフトビジュアライザーで見たCG映像



リフトコンパス

# 社員との約束

## 健康経営への取り組み

社員の成長こそが、長期目標達成の原動力であり、社員の成長なくして企業の成長はありません。社員一人ひとりが良い仕事をし、良い人生を歩むためには、心と身体の健康が重要と捉え、「健康経営宣言」を制定しました。

### 健康経営優良法人に認定

当社は1981年に「心とからだの健康づくり運動」をスタートし、社内に設置した「体力増進センター」を社員と家族に開放するなど、健康文化の育成に取り組んできました。2019年2月には、経済産業省・日本健康会議において発表された「健康経営優良法人2019(大規模法人部門)～ホワイト500～」に2年連続で認定されました。



### 健康経営宣言

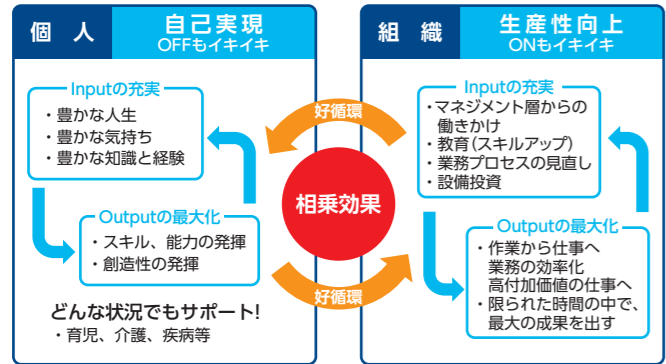
タダノは、1981年に「心とからだの健康づくり運動」をスタートし、積み重ねてきた「健康文化」があります。その「健康文化」を継続し更に発展させていくために、社員一人ひとりの「心とからだの健康づくり」を大切に、生き活きと働ける明るい職場づくりに、組織全体で取り組むことを宣言します。

2018年5月  
代表取締役社長 多田野宏一

## 働き方改革への取り組み

2017年9月より「タダノ働き方改革プロジェクト」に取り組みました。すべての従業員がより能力を発揮し、活躍できるしくみづくりと社内意識改革を推進しました。また、働き方改革の一環として、従業員意識調査を実施することで、働き方改革のPDCAを回しました。

### タダノ流 働き方改革の行動指針



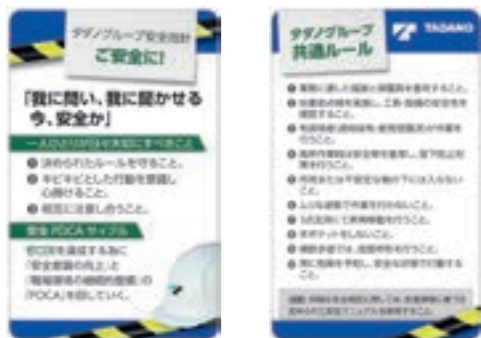
### 主な取り組み

|             |   |
|-------------|---|
| 長時間労働の管理・抑制 | <ul style="list-style-type: none"> <li>所定外労働の削減(月60時間を上回る時間外労働を行う従業員のゼロ化/ノー残業デーの徹底)</li> <li>有給休暇の取得促進(年間15日以上取得の徹底)</li> <li>意識改革(トップメッセージの発信、時間→質への啓発)</li> </ul> |
| 業務プロセスの見直し  | <ul style="list-style-type: none"> <li>「自部署における生産性向上」を全社共通テーマに、TQM活動を実施</li> <li>RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)やCRM(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)などの導入</li> </ul>              |
| 仕事と家庭の両立支援  | <ul style="list-style-type: none"> <li>柔軟な働き方の選択肢の拡充</li> <li>妊娠、出産、育児期の支援拡充</li> <li>介護離職防止対策</li> </ul>   |

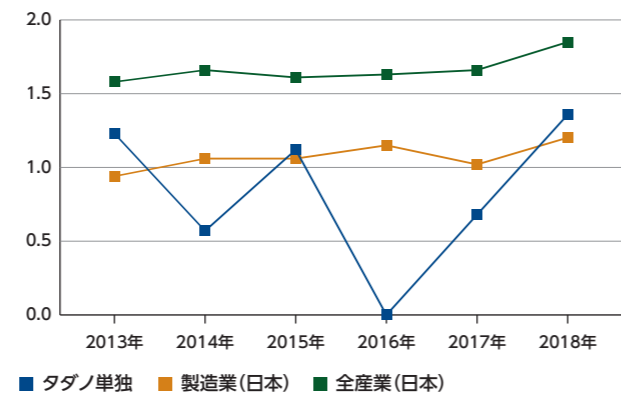
## 労働環境への取り組み

### タダノグループ安全指針の策定

グループ社員の更なる安全意識の向上を目指して、2017年12月に「安全指針カード」を作成しました。表面に「安全への思い」を、裏面には「タダノグループ共通ルール」を掲載しています。本カードは、日本語、英語、ドイツ語、フランス語、タイ語、ヒンディー語の6カ国語で作成し、グループ全社員に配布しています。



### 労働災害の発生状況(度数率※)



※100万のべ実労働時間あたりの労働災害件数で、休業災害発生頻度を表します。(製造業及び全産業(総合工業系を除く)の数値は厚生労働省労働災害動向調査から引用)

## ダイバーシティ推進への取り組み

性別・年齢に関わらず、多様な社員が能力を発揮できる環境の構築に努めています。

### 女性の活躍

2016年には、女性の活躍を推進する行動計画を策定しました。現在、タダノ単独では社員の7%を占めるにとどまっている「女性社員比率」を、10年後には10%にするため、計画的な採用を進めるとともに、次世代リーダーとして活躍できるよう研修の受講機会を増やすなど、女性が活躍できる環境整備・職場配置を進めています。

### シニアの活躍

タダノグループでは、社員が培った経験・知識を引き続き活かすため、65歳を超えた社員が雇用を継続できる枠組みを整備し、65歳再雇用期間満了者を対象とした登録派遣制度を2018年に制定しました。定年後離職者に合わせた職務内容や勤務形態を提供することで、グループ全体での有用性を高めるとともに、対象者本人には就業に伴う充実感を実感できる制度を目指し、2つのコースを設定しました。こうした取り組みを通じて、若年層への技術の伝承を促進させ、お客様へ提供する品質の向上を図っています。

### 女性も働きやすい職場

当社は、女性の声(提案)にも耳を傾け、健診体制の変更を実現させるなど、活躍の場を与えてくれます。会社に活かされていると感じる日々です。私は、31歳のとき保健師として入社しました。その後、2人目の子どもを出産し、一度職場を離れたましたが、現在も仕事を続けています。やりがいを感じ、充実した毎日を過ごしています。



総務部安全衛生G  
アシスタントマネジャー  
赤澤 百合子

## 人財育成への取り組み

「企業は人なり。人の成長なくして、企業の成長なし」「人は財産(=人財)」という考え方のもと、人財育成を大切にしています。

### TQM活動

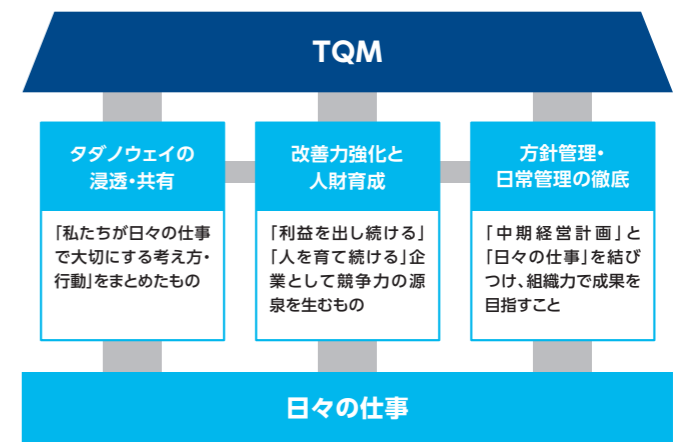
コアバリューの1つである「品質」の更なる向上を図るため、TQMを導入しました。国内・海外グループ会社を含めた全従業員で活動に取り組み、タダノらしい仕事の考え方・進め方の共有や理解を深めています。このことにより、複雑・高速・極端に変化する時代に一人ひとりが自ら考え、積極的に行動できるよう育成しています。

### 海外拠点でのウェビナー・ミーティング受講者(現地社員)の声

- 会社の成功には、全社員が主体的に会社の方向性を理解することが必要です。経営層として、日々、業務プロセスの改善や人財育成に取り組む必要があります。タダノウェイは、その指針となっています。
- 毎年あるウェビナー・ミーティングは、タダノグループの方針や方向性を理解することができる良い取り組みだと思っています。



### TQM活動の3本柱



### グローバル人財の育成

事業領域のグローバル化に伴い、グローバルな舞台上で通用するリーダーの育成を積極的に行っています。

### GLS(グローバルリーダーシップスキル)研修

組織を率いるリーダーとして身につけておきたいビジネススキルを学び、日々の業務の中ですぐに実践・活用することを目指した研修です。2012年度から役員・上級管理職を対象に開始。以降、2017年度まで管理職層を対象に全8回開催し、計89名が受講済。2018年度から、受講層を監督職層に変更し、15名が受講しました。



### プログラム

プレゼンテーションスキル、有効なミーティングの手法、ネゴシエーションのテクニックなどのグローバルな舞台上で通用する洗練されたスキルをトレーニング。

- ・**プレゼンテーションスキル(1日)**  
短時間の講義および講師の実演を通じ行動を学ぶことに焦点を当て、受講者は実際にプレゼンテーションを実施する。
- ・**ネゴシエーションスキル(1.5日)**  
立場ではなく利害に焦点を合わせる。交渉相手と友好関係を築く、選択をする、結果よりも交渉過程を重視しチャレンジする、などを講義と演習を通して理解を深める。
- ・**ミーティングスキル(1日)**  
行動学習に焦点を当て、受講者は実際に発起人、ファシリテーターの役割を務め議題を取りまとめる。
- ・**リーダーシップスキル(1.5日)**  
様々なリーダーシップに対する考え方や実践した内容を知る中で自分自身のリーダーシップ論を考え、語る場を作る。

# 取引先との約束

## 基本的な考え方～購買先との共生

当社製品は数万点から成るパーツで構成されており、その多くを購買先から調達しています。より安全で品質の高い製品をお客様に提供するためには、購買先との強い信頼関係が大切です。「タダノグループCSR憲章」や「タダノグループコンプライアンス規程」では以下のような考え方を明記しています。また、当社ではSOC4物質の不使用など「環境に優しい製品づくり」を進めており、購買先にも理解・協力をいただいています。

### タダノグループCSR憲章:取引先との共生

私たちは、全ての取引先と強い信頼関係を築き、互いに成長し、共生するように努めます。

### タダノグループコンプライアンス規程:公正な調達活動

役員・社員は、部品、資材その他の調達活動において、取引先の選定を公正に行い、取引先のコンプライアンス体制の整備状況に留意する。また、役員・社員は、取引先に対する優越的な地位を濫用して支払の遅延その他の不公正な取引を行ってはならない。

## 相互の成長を目指して～タダノ協栄会

競合他社に負けない技術・能力を持ち、21世紀に生き残れる自立した提案型団体になることを目指し、1994年に購買先と当社にて「タダノ協栄会」を発足しました。発足から現在まで、購買先と長期的な信頼関係を結び、お互いに成長発展を続けてきました。会員企業は合計58社(2019年4月時点)で、活動としては安全研修会、改善活動発表会、工場見学会、SVEカンファレンスなどを毎年実施しています。また、優良な購買先への表彰も毎年行っています。



協栄会メンバーの工場見学会



購買先の年度表彰



香西新工場での勉強会(人材育成活動)

## Win-Winの関係を目指して～「四位一体のSVE活動」の推進

よりよい製品を開発・生産するために、購買先とタダノの3部門(開発・生産・購買)がまさに「四位一体」となって、2009年からSVE活動を推進しています。SVEとは当社独自の活動で、VEに「S(Super and Sustainable)」を付け、今までのVE活動を超越する活動として、永続的に将来に向かって力強く継続できる活動にしたいという思いが込められています。

### SCOOP活動

SVE活動の中核を担う「SCOOP(Super Cooperation/素晴らしい協業)活動」は、2011年からスタートし、購買先とともに個別のテーマ・目標を設定し、お互いの強みや特性を活かしながら価値・機能向上やコスト削減に取り組む活動です。

### SVEカンファレンス

SVE活動をさらに大きくかつ継続できる活動とするために、2012年から「SVEカンファレンス」を年に2回開催しています。2019年4月19日に開催された「第15回SVEカンファレンス」では、36社63名の購買先と、タダノグループより役員を含む102名の計165名が参加しました。今回のカンファレンスでは「SCOOP活動」に関する5つのテーマについて発表がありました。

### テーマの一例(第15回SVEカンファレンスより)

- 海外大型カーゴクレーン フレーム開発
- シリンダ内面加工
- 旋回台溶接ひずみの改善
- アウトリガ長さ検出器
- キャブ組み立ての作業改善



SVEカンファレンス(購買先の発表)

# 株主・投資家への約束

## 当社のIR方針について

タダノグループCSR憲章では、株主・投資家の皆さまを重要なステークホルダーの一つと位置づけ、「株主・投資家の資産価値を高めるよう業績の向上と長期的かつ安定的成長に努めます」と約束しています。

私たちはすべてのステークホルダーに対し、関係法令の遵守はもとより、経営や事業活動状況など企業情報を適時かつ適切に開示します。具体的には、東京証券取引所が提供する「適時開示情報伝達システム(TDnet)」を通じて開示するとともに、内容に応じてニュースリリースの発信や当社ウェブサイトへの掲載しています。

また東京にて「アナリスト決算説明会」を年2回開催し、社長自ら決算の状況や当事業の方向性について説明しています。また機関投資家の皆さま

をはじめとする企業訪問や工場見学も積極的に受け入れています。

なお当社は、決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、本決算ならびに四半期ごとの決算期日の翌日から決算発表日までを「沈黙期間」とし、決算に関する問い合わせへの回答やコメント等を差し控えています。



アナリスト決算説明会(東京)

## IRカレンダー

| イベント               | 2019年度      | 2018年度(参考)  |
|--------------------|-------------|-------------|
| 2019年3月期 決算発表      | 2019年 4月26日 | 2018年 4月27日 |
| アナリスト決算説明会(東京にて)   | 2019年 5月15日 | 2018年 5月15日 |
| 第71回 定時株主総会        | 2019年 6月25日 | 2018年 6月26日 |
| 2020年3月期 第1四半期業績発表 | 2019年 7月31日 | 2018年 7月31日 |
| 2020年3月期 中間決算発表    | 2019年10月30日 | 2018年10月30日 |
| アナリスト中間決算説明会(東京にて) | 2019年11月11日 | 2018年11月7日  |
| 2020年3月期 第3四半期業績発表 | 2020年1月下旬   | 2019年1月31日  |

## アナリスト・カバレッジについて

タダノの業績などを分析し、当社株式の推奨、論評などを行っている証券会社のアナリストの方々をご紹介します。(2019年6月7日現在)

| 社名(50音順)              | アナリスト氏名      |
|-----------------------|--------------|
| 株式会社いちよし経済研究所         | 高辻 成彦 氏      |
| CLSA証券株式会社            | エドワード ボーレー 氏 |
| JPモルガン証券株式会社          | 佐野 友彦 氏      |
| 大和証券株式会社              | 三浦 勇介 氏      |
| 株式会社東海東京調査センター        | 大平 光行 氏      |
| 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 | 石塚 大 氏       |
| マッコーリキャピタル証券株式会社      | 境田 邦夫 氏      |
| モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社  | 井原 芳直 氏      |

<注意事項>  
 ●この一覧は、掲載時点で当社が入手可能な情報に基づいて、当社に関するレポートの発行を確認できる証券アナリストの方々を掲載しています。従って、この一覧には掲載していないアナリストも存在し得ること、またすべての情報が最新ではない可能性があることを、あらかじめお断りしておきます。  
 ●この一覧の掲載に関しては、当社の業績などを分析、予測する企業または調査機関のアナリストの情報を紹介するという趣旨のみで掲載しており、当社株式の売買を勧誘するものではありません。  
 ●この一覧のアナリスト、およびこの一覧に掲載されていないアナリストは、定期または不定期に、独自の判断に基づいて当社の業績、事業、製品、技術などを分析し、あるいは業績を予測しております。それらのいかなる過程にも、当社または当社の経営陣は一切関与していません。実際の投資に際しては、ご自身の判断で行われるようお願い致します。



# 社会への約束

当社は2005年にCSR委員会を設置し、CSRの推進・浸透に取り組んでいます。タダノグループは「企業が社会や人との調和の中で生かされている存在」との認識のもと、地域社会・国際社会発展への貢献と地球環境の保全に役立つ事業活動を推進し、全てのステークホル

ダーの期待に応え、企業価値を最大化することで「世界に、そして未来に誇れる企業」を目指します。この理念にもとづき、2006年に企業の行動指針としての「CSR憲章」と、これを実行するための社員個人の行動指針「CSR規範」を制定しました。

「創造・奉仕・協力」の経営理念にもとづき、「タダノにしかできない社会貢献」を通じて、社会のお役に立てればと考えています。

## CSR憲章



### 一. お客様事業価値の向上

私たちは、安全と品質に配慮した製品・サービス・システムをお届けし、お客様の事業価値向上に努めます。

### 一. 新しい技術への挑戦

私たちは、お客様に感動して頂けるような独創性溢れる製品・サービス・システムづくりに挑戦します。

### 一. 誠実な事業活動

私たちは、公正で透明性のある誠実な事業活動に努めます。

### 一. 社員の尊重

私たちは、社員一人ひとりの個性を尊重し、活き活きと働ける健康な明るい職場づくりに努めます。

### 一. 取引先との共生

私たちは、全ての取引先と強い信頼関係を築き、互いに成長し、共生するよう努めます。

### 一. 投資価値の維持・向上

私たちは、株主・投資家の資産価値を高めるよう業績の向上と長期的かつ安定成長に努めます。

### 一. 社会との共生

私たちは、よき企業市民として、国、地域等の法令、慣習、文化を尊重し、その発展に寄与する事業活動に努めます。

### 一. 地球環境との調和

私たちは、全ての事業プロセスにおいて地球環境との調和に努めます。

### 一. 適切なコミュニケーション活動

私たちは、よきパートナーである全てのステークホルダーに対し、正確な情報を適時、適切なコミュニケーション方法で開示し、長期的な信頼関係の維持に努めます。

## 環境への取り組み

タダノグループは、地球環境を保全し持続可能な社会づくりに貢献するための取り組みを推進しています。2008年には環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証を取得し、製品のみならず事業活動においても環境負荷低減への取り組みを進めています。

具体的には、志度工場に2,000平方メートルの太陽光パネル(最大出力260kw)を設置、「Next Generation Smart Plant」をコンセプトに掲げる香西新工場では、エネルギー使用量をリアルタイムで把握できるEMS(エネルギーマネジメントシステム)を導入しています。また、

志度工場・香西工場においてはバージ船を利用した製品輸送に取り組んだり、各事業所ではエアコンや照明の節電に努めています。

なお、日本における2018年度のエネルギー消費量は5,665キロリットル(原油換算/エネルギー定期報告書届出値)でした。事業活動におけるエネルギー消費の大半が工場での生産活動にともなうものであり、生産高の変化によってエネルギー消費量も大きく左右される傾向にあります。生産設備の高効率化やLED照明の導入など、今後も省エネルギーへの取り組みを続けていきます。

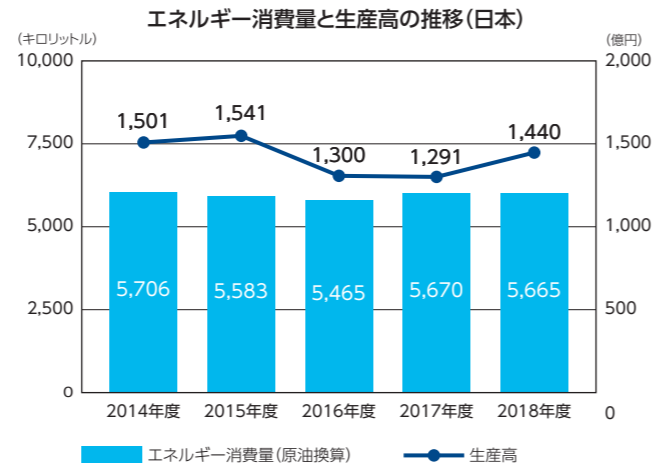
また、製品においてもエンジンの排ガス基準に対応したモデルチェンジや、各セグメントで低騒音・低公害のための機能を備えた「環境配慮型製品」を導入。ラフテレーンクレーンCREVO G4シリーズでは、環境に配慮した「燃料消費モニタ」や「エコ・モード」機能を搭載し、CO<sub>2</sub>排出の削減や、燃料消費量の改善、低騒音作業など作業効率と環境に配慮した操作をサポートしています。



新たにバージ船を導入(2019年8月に運行を開始)



太陽光パネルの設置(志度工場)



## 文化財修復・学術支援

タダノらしい社会貢献の1つとして「文化財修復支援」が挙げられます。「クレーンがあれば、倒れたモアイ像を起こせるのに」という現地の呼びかけに応える形で1988~96年、「モアイ修復プロジェクト」に取り組みました。また2007年には奈良県の「高松塚古墳石室解体」で専用治具の開発など技術支援を行い、2018年2月に「ものづく

り日本大賞」の経済産業大臣特別賞を受賞しました。2008年にはカンボジア・アンコール遺跡修復のために製品を寄贈しました。

そして2019年は、創業100周年記念事業として、京都大学・花山天文台への支援とチリ・イースター島への3台目のクレーン寄贈を行います。花山天文台は太陽の観測で世界的に有名で「アマ

チュア天文学の聖地」としても知られていますが、2018年に同じく京都大学の岡山天文台が新設され閉鎖の危機を迎えていました。そこで「一般財団法人 花山宇宙文化財団」を設立し、今後10年間にわたり毎年1千万円を寄付します。この支援を通じて、タダノは天文学分野への社会貢献にも取り組みます。



モアイ修復プロジェクト



高松塚古墳石室解体の技術支援



アンコール遺跡修復のための製品寄贈



花山天文台存続への支援

## 科学体験イベントへの協賛・出展

「子供たちの科学離れを防ごう!」を合い言葉に、地元の大学等が開催する科学体験イベントに出展しています。

「この原理」「パスカルの原理」「滑車の原理」を学べる実験器具や高所作業車の試乗、空気圧で動く「スケルトンクレーン」操作などを子供たちに体験してもらいました。



## 夏休み親子工場見学会の開催

普段は目にする機会がない工場を見学し、当社製品に試乗いただくことで、お子さまにもものづくりや技術への理解・興味を深めていただくとともに、夏休みの自由研究の一助になればと考え、毎年実施しています。

2018年度は7月に志度工場で開催し、社内外あわせて42組の親子に参加いただきました。



## ハートフルポケット

さまざまな社会活動を行う団体・個人に対し寄付を行う社員参加型の草の根支援組織として2007年に発足しました。会員となった社員は毎月の給与から100円、賞与から500円を献金し、集まった資金に会社からも同額を合わせて(マッチングギフト)、毎年2回の寄付を行っています。2019年3月までに、延べ52の団体に寄付しました。



## 献血活動等への協力

日本赤十字社の献血サポーターに参加し、年2回、香川県内の各事業所で献血を実施し、毎年400名を超えるグループ社員が協力しています。なお2018年度の献血者数は479名で、香川県の献血全体のおよそ1.47%にあたるそうです。

また地元大学や専門学校の看護学生およそ100名を対象に臨地研修の受け入れを毎年行っています。



# コーポレート・ガバナンス&コンプライアンス

## コーポレート・ガバナンス 基本的な考え方

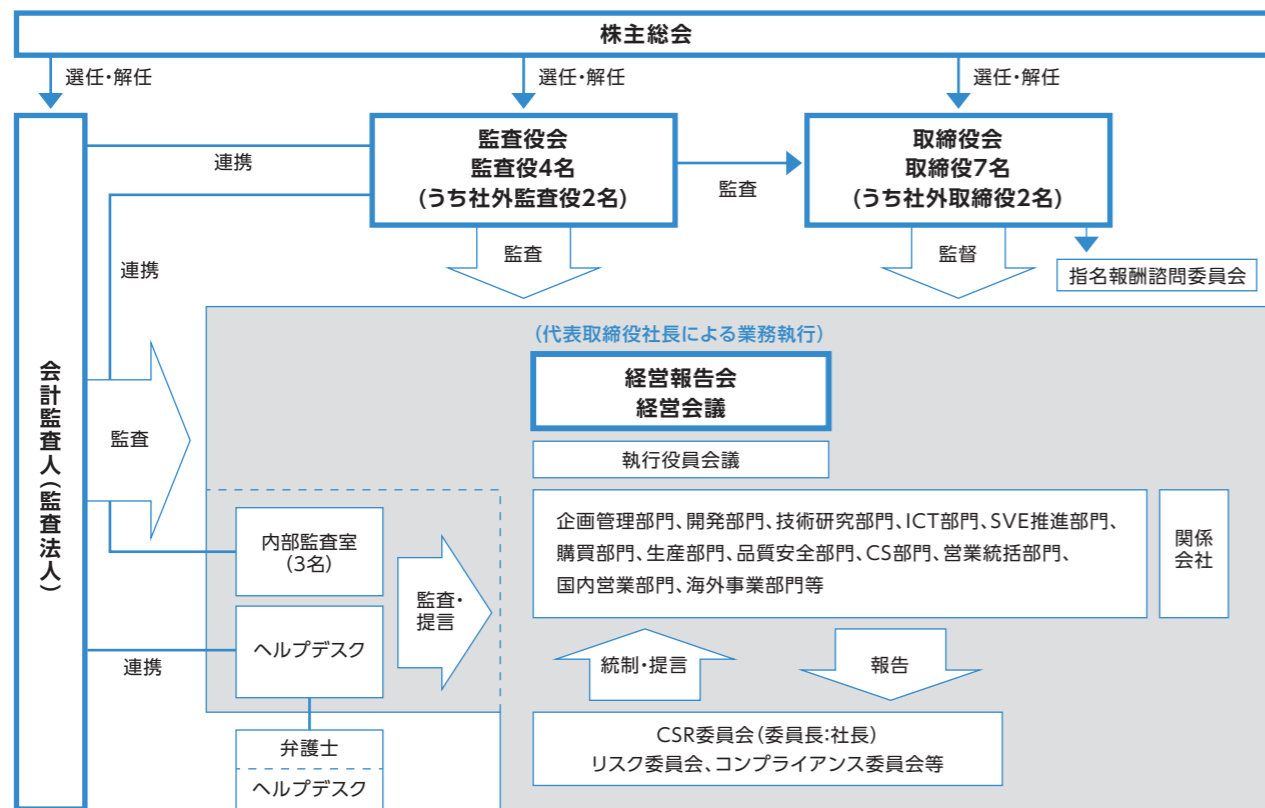
当社はコーポレート・ガバナンスを経営の透明性・健全性・効率性の確保のために、経営の重要課題の一つと位置付けています。コーポレート・ガバナンスが有効に機能するためには、経営理念等に基づき健全な企業風土を根付かせ、この健全な企業風土により企業経営(経営者)が規律される仕組み、監査役・監査環境整備・実質的な機能強化により監査が適正に行われること等が重要であると考えています。

なお、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現するため、「コーポレートガバナンス・ガイドライン」を制定し、タダノグループにおけるコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方等を明らかにしています。

詳細はウェブサイトに掲載  
www.tadano.co.jp/ir/

タダノ 検索

## ガバナンス体制図



## ガバナンス体制の変遷

| 年月        | 施策内容                                      |
|-----------|---|
| 1999年 4月  | 執行役員制度導入                                  |
| 2005年 10月 | CSR委員会・リスク委員会・コンプライアンス委員会設置               |
| 2006年 4月  | 内部統制室設置                                   |
| 2006年 5月  | CSR憲章・CSR規範制定、内部通報制度の導入、内部統制システム構築の基本方針制定 |
| 2008年 4月  | J-SOX委員会設立、J-SOX経営者評価体制の構築                |
| 2008年 6月  | 社外取締役選任(2名)                               |
| 2014年 9月  | タダノグループ経営規程制定                             |

| 年月        | 施策内容                                     |
|-----------|--|
| 2015年 4月  | 内部監査室設置(「内部統制室」を「内部監査室」に改称し、監査機能強化)      |
| 2015年 12月 | コーポレートガバナンス・ガイドライン制定(コーポレートガバナンス・コードに対応) |
| 2016年 4月  | 任意の指名諮問委員会設置                             |
| 2017年 4月  | 任意の指名報酬諮問委員会の改編                          |
| 2019年 1月  | タダノグループコンプライアンス規程制定<br>コンプライアンス担当役員設置    |
| 2019年 7月  | コンプライアンス室設置                              |

## 各会議体・委員会等の説明

### 取締役会

取締役会は取締役7名(うち社外取締役2名)で構成され、当社の企業価値の最大化と、収益力・資産効率などの改善を図るため、経営計画などを定めその実行を推進し、また、内部統制システムやリスク管理体制を整備することで経営判断における取締役の適切なリスクテイクを支え、その役割・責務を適切に果たしています。

### 経営報告会/経営会議

社長の意思決定を補佐する審議機関として、業務執行の報告と情報共有化を図る「経営報告会」および経営に関する戦略討議を行う「経営会議」を設け、毎月1回開催しています。なお、それぞれ取締役、執行役員および監査役で構成されています。

### リスク委員会

リスク委員会は年2回、社内のリスクの洗い出しと評価を行い、リスク毎に対応部署を定めて対応策を推進し、実績のレビューを行うことでリスクマネジメントの強化を図っています。

## 取締役会の実効性評価

取締役会の実効性評価につきましては、コーポレートガバナンス・ガイドラインの第34条に記載しております。2018年度につきましては、全取締役・全監査役からの取締役会評価アンケートの分析結果と議論により、社外取締役も参加する同ガイドラインの第25条に記載の毎月2回以上開催する(各執行役員の業務執行と執行役員間の連携を強化するための)執行役員会議、毎月1回開催する(経営に関する戦略討議を行う)経営会議での議論を経て

### 監査役会

監査役会は監査役4名(うち社外監査役2名)で構成され、各監査役が有する高い専門性と情報をもとに、独立した客観的な立場で権限を行使し、適切に判断して取締役の業務執行を監査することができる体制を確保しています。

### 指名報酬諮問委員会

指名報酬諮問委員会は、社内取締役2名、社外取締役2名および社外監査役1名の5名で構成され、取締役・監査役候補者および執行役員の指名ならびに取締役の報酬の決定に際し、取締役会の諮問機関として、公正性および透明性の確保に資するために、その内容を審議し取締役会に報告します。また、執行役員の報酬の決定に際し、社長の諮問機関として、公正性および透明性の確保に資するために、その内容を審議し社長に報告します。

### 執行役員会議・役員合宿

各執行役員の業務執行と執行役員間の連携を強化するため「執行役員会議」を毎月2回以上開催しています。また、経営戦略の集中討議の場として「役員合宿」を年2回開催しています。

## コンプライアンスの取り組み

### コンプライアンス確保のための体制

「CSR憲章」「タダノグループコンプライアンス規程」に従って、グループ社員全員が法令や社会のルールを遵守し、また高い倫理観をもち、透明・健全かつ誠実な事業活動に取り組んでいます。また、コンプライアンス担当役員を設置すると共に、各部門を代表する委員により構成されるコンプライアンス委員会を定期的に開催しています。

### コンプライアンス委員会

コンプライアンス委員会は啓発ツール等による法令遵守の教育研修によってコンプライアンス意識の啓発を行うと共に、法令遵守対策の支援等を実施し、コンプライアンス体制の強化を図っています。

### コンプライアンスの浸透活動

日常業務におけるコンプライアンス上の問題を解説した「コンプライアンス読本」を、全社員に配布し、各職場では朝礼等において適時、読み合わせを行っています。また、毎月e-ラーニングを活用した社員向けのコンプライアンス研修を実施しており、具体的テーマについて、必要に応じ、集合研修も実施しています。

### 内部通報制度

社員が違法または不適切な行為等に関する情報を会社に通報できるよう内部通報制度を設け、社内窓口のほか、社外の弁護士事務所にも窓口を設けています。また、社内規程により通報者の秘密と不利益取扱の禁止を定め、通報者の保護を図っています。なお、法令違反行為等を確認したときは、コンプライアンス委員会へ報告することとしており、さらに、当該違反行為等が重大と認めるときは、直ちに調査結果に対する対応策についての意見とともにこれを社長及び監査役に報告することとしています。

# 役員紹介

## 取締役

**代表取締役社長** **多田野 宏一**



**略歴**  
 1977年4月 丸紅株式会社入社  
 1988年6月 当社入社  
 1991年6月 社長室長  
 1997年1月 ファウン GmbH(現:タダノ・ファウン GmbH)取締役社長  
 1997年6月 取締役  
 1999年4月 取締役、執行役員常務  
 2001年4月 取締役、執行役員専務  
 2002年4月 代表取締役、執行役員専務  
 2003年6月 代表取締役社長  
 2019年6月 代表取締役社長、技術研究部門統括(現任)

**代表取締役副社長** **鈴木 正**



**略歴**  
 1976年4月 住友商事株式会社入社  
 1997年4月 当社入社  
 1997年7月 海外事業部長  
 1999年4月 執行役員  
 2001年6月 取締役、執行役員  
 2002年4月 取締役、執行役員常務  
 2003年6月 取締役、執行役員専務  
 2015年4月 取締役副社長  
 2017年4月 代表取締役副社長  
 2019年7月 代表取締役副社長、営業統括部門担当、CS部門・国内営業部門・海外事業部門・欧州事業部門・中古車事業部門統括(現任)

**取締役・執行役員専務** **奥山 環**



**略歴**  
 1980年4月 当社入社  
 2000年10月 設計第一部長  
 2004年1月 ファウン GmbH(現:タダノ・ファウン GmbH)取締役  
 2008年4月 執行役員  
 2011年4月 執行役員常務  
 2011年6月 取締役、執行役員常務  
 2017年4月 取締役、執行役員専務  
 2019年7月 取締役、執行役員専務、開発部門担当、SVE推進部門・インド事業部門統括(現任)

**取締役・執行役員専務** **氏家 俊明**



**略歴**  
 1984年4月 丸紅株式会社入社  
 1991年10月 MMS Europe GmbH取締役社長  
 2000年4月 Trax Inc. CEO  
 2009年4月 丸紅株式会社建設機械部長  
 2013年4月 同社経営企画部長  
 2014年4月 同社執行役員  
 2017年4月 同社常務執行役員  
 2018年4月 同社常務執行役員、輸送機グループCEO  
 2019年4月 当社入社  
 2019年6月 取締役、執行役員専務、企画管理部門・ICT部門統括(現任)

**取締役・執行役員常務** **西陽 一朗**



**略歴**  
 1976年4月 ヤンマーディーゼル株式会社(現:ヤンマー株式会社)入社  
 2005年4月 同社開発本部トラクタ開発部第1技術部長  
 2007年1月 ヤンマー農機株式会社(現:ヤンマー株式会社)トラクタ事業本部開発部第3開発グループ部長  
 2008年6月 同社トラクタ事業本部開発部製品技術部長  
 2008年9月 当社入社  
 2009年1月 開発企画部長  
 2009年4月 執行役員  
 2011年4月 執行役員常務  
 2011年6月 取締役、執行役員常務  
 2019年8月 取締役、執行役員常務、生産部門担当、購買部門・品質安全部門・タイ事業部門・中国事業部門統括(現任)

**取締役** **吉田 康之** 社外



**略歴**  
 1971年4月 株式会社三菱総合研究所入社  
 2002年10月 同社参与  
 2007年10月 株式会社日建設計総合研究所入社、上席研究員  
 2008年1月 同社常務理事、上席研究員  
 2008年6月 当社取締役(現任)  
 2009年3月 株式会社日建設計総合研究所取締役、常務理事、副所長  
 2019年6月 飯野海運株式会社社外取締役(現任)

**取締役** **野口 由典** 社外



**略歴**  
 1977年4月 日野自動車工業株式会社(現:日野自動車株式会社)入社  
 2003年6月 日野自動車株式会社業務部長  
 2004年6月 同社執行役員業務部長  
 2006年6月 日野モーターセールススタイルランドLtd.取締役社長  
 2009年4月 日野自動車株式会社執行役員  
 2010年6月 同社常務執行役員  
 2013年4月 日野モーターセールスU.S.A. Inc.取締役社長  
 2014年4月 日野自動車株式会社専務役員北米事業統括  
 2018年4月 同社執行役員副社長北米事業統括  
 2019年4月 当社顧問  
 2019年6月 当社取締役(現任)

## 監査役

**常勤監査役** **児玉 義人**



**略歴**  
 1975年4月 株式会社第一勧業銀行(現:株式会社みずほ銀行)入行  
 2004年2月 株式会社セシール(現:株式会社ディノス・セシール)入社  
 2004年3月 同社専務執行役員、管理本部長  
 2005年3月 同社専務取締役、管理本部長兼業務本部長  
 2006年4月 当社入社  
 2007年6月 執行役員、企画管理部門担当補佐、企画管理部長  
 2009年4月 執行役員、企画管理部門担当、企画管理部長  
 2010年4月 執行役員常務、企画管理部門担当、企画管理部長  
 2011年4月 当社顧問  
 2011年6月 常勤監査役(現任)

**常勤監査役** **北村 明彦**



**略歴**  
 1982年4月 日産自動車株式会社入社  
 2008年4月 同社事業収益管理担当部長  
 2008年9月 当社入社  
 2008年12月 企画管理部長(経理・財務担当)  
 2011年4月 執行役員  
 2012年4月 執行役員、企画管理部門担当  
 2015年1月 執行役員、欧州事業部門担当補佐、タダノ・ファウン GmbH取締役副社長  
 2017年4月 監査役室顧問  
 2017年6月 常勤監査役(現任)

**常勤監査役** **井之川 和司** 社外



**略歴**  
 1979年4月 香川県警察官拝命  
 2008年3月 高松北警察署副署長  
 2009年3月 香川県警察本部鑑識課長  
 2010年3月 香川県警察本部警務部公安委員会補佐官  
 2011年2月 香川県警察本部会計課長・警務部参事官  
 2014年6月 当社常勤監査役(現任)

**監査役** **三宅 雄一郎** 社外



**略歴**  
 1972年4月 弁護士登録(現在に至る)  
 1972年4月 三宅法律事務所入所(現在に至る)  
 1994年8月 大平製紙株式会社(現:ダイニップ株式会社)社外監査役  
 1995年6月 山洋電気株式会社社外監査役  
 1998年6月 住友大阪セメント株式会社社外監査役  
 1999年6月 山洋電気株式会社社外取締役(現任)  
 2000年11月 株式会社東京個別指導学院社外監査役  
 2003年6月 新電元工業株式会社社外監査役(現任)  
 2006年8月 旭化成株式会社社外監査役  
 2008年6月 当社監査役(現任)  
 2014年6月 旭有機材工業株式会社(現:旭有機材株式会社)社外取締役(現任)

## 取締役会の構成

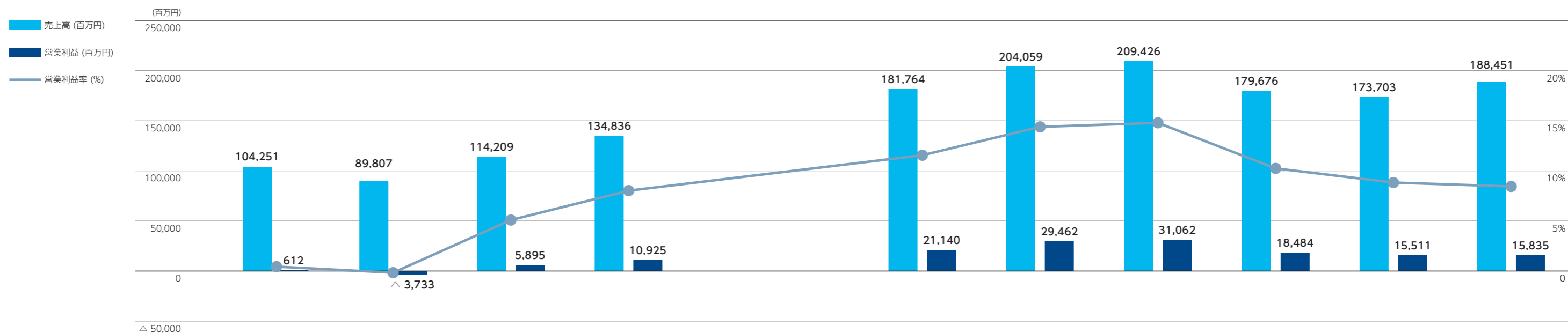
当社では、知識や経験、能力のバランスを考慮し、取締役を選任しております。

### 取締役が特に有する専門性

|        | 企業経営 | ガバナンス<br>リスク管理 | 財務・会計 | 製造・技術<br>研究開発 | マーケティング<br>営業 | グローバル<br>経験 |
|--------|------|----------------|-------|---------------|---------------|-------------|
| 多田野 宏一 | ●    | ●              | ●     | ●             | ●             | ●           |
| 鈴木 正   | ●    | ●              | ●     |               | ●             | ●           |
| 奥山 環   | ●    |                |       | ●             |               | ●           |
| 氏家 俊明  | ●    | ●              | ●     |               | ●             | ●           |
| 西陽 一朗  | ●    |                |       | ●             |               |             |
| 吉田 康之  | ●    |                |       |               | ●             |             |
| 野口 由典  | ●    | ●              | ●     |               | ●             | ●           |

※上記一覧表は、取締役の有するすべての知見を表すものではありません。

# 業績・財務ハイライト (連結ベース)



|                            | 2009年度  | 2010年度  | 2011年度  | 2012年度  | 2013年度  | 2014年度  | 2015年度  | 2016年度  | 2017年度  | 2018年度   |
|----------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|
| <b>損益状況</b>                |         |         |         |         |         |         |         |         |         |          |
| 売上高 (百万円)                  | 104,251 | 89,807  | 114,209 | 134,836 | 181,764 | 204,059 | 209,426 | 179,676 | 173,703 | 188,451  |
| 営業利益 (百万円)                 | 612     | △ 3,733 | 5,895   | 10,925  | 21,140  | 29,462  | 31,062  | 18,484  | 15,511  | 15,835   |
| 経常利益 (百万円)                 | 297     | △ 3,886 | 5,778   | 11,448  | 21,642  | 30,357  | 30,680  | 18,490  | 14,907  | 15,604   |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 (損失) (百万円) | △ 895   | △ 6,722 | 3,145   | 7,341   | 14,410  | 19,483  | 19,621  | 11,881  | 9,391   | 11,462   |
| <b>キャッシュ・フロー状況</b>         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |          |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)     | 7,913   | 6,472   | 13,612  | 2,188   | 15,467  | 19,800  | 19,387  | 3,301   | 30,015  | 2,515    |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)     | △ 1,700 | △ 873   | △ 868   | △ 1,972 | △ 3,753 | △ 4,079 | △ 3,758 | △ 4,798 | △ 3,942 | △ 17,052 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)     | 3,216   | △ 5,738 | △ 2,540 | △ 2,050 | △ 4,910 | △ 4,287 | △ 3,136 | △ 2,495 | △ 7,992 | △ 5,717  |
| <b>財務状況</b>                |         |         |         |         |         |         |         |         |         |          |
| 総資産額 (百万円)                 | 159,843 | 146,104 | 161,125 | 177,538 | 198,864 | 223,525 | 235,302 | 229,737 | 245,501 | 255,793  |
| 現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)       | 30,822  | 30,367  | 40,155  | 39,512  | 48,156  | 61,262  | 73,120  | 68,291  | 86,624  | 65,753   |
| 有利子負債 (百万円)                | 46,553  | 40,189  | 38,101  | 38,706  | 38,233  | 37,620  | 36,869  | 37,235  | 33,750  | 30,165   |
| 株主資本 (百万円)                 | 87,516  | 80,357  | 83,094  | 88,757  | 100,454 | 116,796 | 133,190 | 141,746 | 147,841 | 156,011  |
| <b>1株当たり情報</b>             |         |         |         |         |         |         |         |         |         |          |
| 純資産額 (円)                   | 660.4   | 590.6   | 612.1   | 677.3   | 805.9   | 958.2   | 1,060.0 | 1,121.9 | 1,180.3 | 1,216.0  |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 (損失) (円)   | △ 7.0   | △ 52.9  | 24.8    | 57.8    | 113.7   | 153.8   | 154.9   | 93.8    | 74.2    | 90.5     |
| 株価収益率 (%)                  | —       | —       | 24.1    | 18.8    | 11.8    | 10.5    | 6.7     | 13.8    | 21.5    | 11.6     |
| 配当金 (円)                    | 8.0     | 3.0     | 7.0     | 12.0    | 19.0    | 23.0    | 26.0    | 26.0    | 26.0    | 26.0     |
| 配当性向 (%)                   | —       | —       | 28.3    | 20.7    | 16.7    | 15.0    | 16.8    | 27.7    | 35.1    | 28.7     |
| <b>その他指標</b>               |         |         |         |         |         |         |         |         |         |          |
| 営業利益率 (%)                  | 0.6     | —       | 5.2     | 8.1     | 11.6    | 14.4    | 14.8    | 10.3    | 8.9     | 8.4      |
| ROA (総資産営業利益率) (%)         | 0.4     | —       | 3.8     | 6.5     | 11.2    | 14.0    | 13.5    | 7.9     | 6.5     | 6.3      |
| ROE (自己資本当期純利益率) (%)       | —       | —       | 4.1     | 9.0     | 15.3    | 17.5    | 15.4    | 8.6     | 6.4     | 7.6      |
| 自己資本比率 (%)                 | 52.5    | 51.3    | 48.2    | 48.4    | 51.4    | 54.3    | 57.0    | 61.8    | 60.9    | 60.2     |
| 設備投資額 (百万円)                | 1,583   | 964     | 1,584   | 2,925   | 4,178   | 3,905   | 4,572   | 6,030   | 2,838   | 14,458   |
| 減価償却費 (百万円)                | 3,060   | 2,696   | 2,353   | 2,167   | 2,366   | 2,589   | 2,793   | 3,113   | 2,864   | 2,984    |
| 研究開発費 (百万円)                | 4,010   | 3,727   | 3,480   | 3,998   | 4,497   | 4,876   | 5,611   | 5,993   | 6,149   | 6,918    |
| 海外売上高比率 (%)                | 53.9    | 42.6    | 46.3    | 49.1    | 52.5    | 50.7    | 49.9    | 43.1    | 43.8    | 48.5     |
| 社員数 (名)                    | 3,043   | 3,091   | 3,113   | 3,144   | 3,227   | 3,491   | 3,433   | 3,346   | 3,311   | 3,405    |

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(2018年および2019年3月31日現在)

| 資産の部            | 2017年度  | 2018年度  |
|-----------------|---------|---------|
| <b>流動資産</b>     | 188,687 | 186,156 |
| 現金及び預金          | 86,854  | 65,952  |
| 受取手形及び売掛金       | 41,996  | 46,699  |
| 電子記録債権          | 3,505   | 4,137   |
| 商品及び製品          | 23,232  | 28,358  |
| 仕掛品             | 21,682  | 20,400  |
| 原材料及び貯蔵品        | 9,637   | 13,997  |
| その他             | 2,100   | 6,746   |
| 貸倒引当金           | △321    | △136    |
| <b>固定資産</b>     | 56,814  | 69,637  |
| <b>有形固定資産</b>   | 41,747  | 52,597  |
| 建物及び構築物         | 36,666  | 37,331  |
| 機械装置及び運搬具       | 12,042  | 12,853  |
| 土地              | 23,025  | 23,056  |
| リース資産           | 1,032   | 1,108   |
| 建設仮勘定           | 1,262   | 12,528  |
| その他             | 8,549   | 8,776   |
| 小計              | 82,579  | 95,655  |
| 減価償却累計額         | △40,831 | △43,058 |
| <b>無形固定資産</b>   | 1,187   | 1,703   |
| <b>投資その他の資産</b> | 13,879  | 15,336  |
| 投資有価証券          | 7,209   | 7,675   |
| 繰延税金資産          | 6,088   | 7,036   |
| その他             | 1,858   | 1,618   |
| 貸倒引当金           | △1,277  | △994    |
| <b>資産合計</b>     | 245,501 | 255,793 |

| 負債の部               | 2017年度  | 2018年度  |
|--------------------|---------|---------|
| <b>流動負債</b>        | 70,334  | 71,306  |
| 支払手形及び買掛金          | 28,310  | 32,877  |
| 電子記録債務             | 8,417   | 8,914   |
| 短期借入金              | 18,604  | 10,638  |
| リース債務              | 215     | 222     |
| 未払法人税等             | 3,517   | 3,826   |
| 製品保証引当金            | 1,641   | 1,719   |
| 債務保証損失引当金          | 0       | —       |
| 未払金                | 4,532   | 6,349   |
| 割賦利益繰延             | 159     | 41      |
| その他                | 4,937   | 6,714   |
| <b>固定負債</b>        | 25,122  | 29,461  |
| 社債                 | 10,000  | 10,000  |
| 長期借入金              | 4,559   | 8,920   |
| リース債務              | 372     | 383     |
| 繰延税金負債             | 91      | 91      |
| 再評価に係る繰延税金負債       | 2,109   | 2,109   |
| 退職給付に係る負債          | 7,360   | 7,317   |
| その他                | 629     | 639     |
| <b>負債合計</b>        | 95,457  | 100,768 |
| <b>純資産の部</b>       |         |         |
| <b>株主資本</b>        | 147,841 | 156,011 |
| 資本金                | 13,021  | 13,021  |
| 資本剰余金              | 16,853  | 16,853  |
| 利益剰余金              | 120,606 | 128,776 |
| 自己株式               | △2,639  | △2,640  |
| <b>その他の包括利益累計額</b> | 1,615   | △2,035  |
| その他有価証券評価差額金       | 1,622   | △609    |
| 繰延ヘッジ損益            | —       | △0      |
| 土地再評価差額金           | 1,270   | 1,270   |
| 為替換算調整勘定           | △585    | △2,139  |
| 退職給付に係る調整累計額       | △693    | △556    |
| <b>非支配株主持分</b>     | 587     | 1,049   |
| <b>純資産合計</b>       | 150,044 | 155,025 |
| <b>負債純資産合計</b>     | 245,501 | 255,793 |

(単位:百万円)

## 連結損益計算書

(2018年および2019年3月31日終了の事業年度)

(単位:百万円)

|                        | 2017年度  | 2018年度  |
|------------------------|---------|---------|
| <b>売上高</b>             | 173,703 | 188,451 |
| <b>売上原価</b>            | 126,366 | 137,579 |
| <b>割賦販売利益繰延前売上総利益</b>  | 47,337  | 50,872  |
| 割賦販売未実現利益戻入額           | 110     | 156     |
| 割賦販売未実現利益繰入額           | 117     | 39      |
| <b>売上総利益</b>           | 47,330  | 50,989  |
| <b>販売費及び一般管理費</b>      | 31,818  | 35,153  |
| <b>営業利益</b>            | 15,511  | 15,835  |
| <b>営業外収益</b>           | 497     | 537     |
| 受取利息                   | 84      | 86      |
| 受取配当金                  | 134     | 167     |
| その他                    | 278     | 283     |
| <b>営業外費用</b>           | 1,102   | 768     |
| 支払利息                   | 452     | 370     |
| 為替差損                   | 439     | 269     |
| その他                    | 209     | 128     |
| <b>経常利益</b>            | 14,907  | 15,604  |
| <b>特別利益</b>            | 36      | 700     |
| 固定資産売却益                | 6       | 12      |
| 投資有価証券売却益              | 0       | 688     |
| 関係会社清算益                | 30      | —       |
| <b>特別損失</b>            | 268     | 86      |
| 固定資産除売却損               | 41      | 42      |
| 減損損失                   | —       | 44      |
| 関係会社出資金評価損             | 87      | —       |
| 関係会社貸倒引当金繰入額           | 139     | —       |
| <b>税金等調整前当期純利益</b>     | 14,676  | 16,218  |
| 法人税、住民税及び事業税           | 5,246   | 4,761   |
| 法人税等調整額                | △3      | △32     |
| <b>法人税等合計</b>          | 5,243   | 4,728   |
| <b>当期純利益</b>           | 9,432   | 11,490  |
| <b>非支配株主に帰属する当期純利益</b> | 41      | 27      |
| <b>親会社株主に帰属する当期純利益</b> | 9,391   | 11,462  |

## 連結包括利益計算書

(2018年および2019年3月31日終了の事業年度)

(単位:百万円)

|                 | 2017年度 | 2018年度 |
|-----------------|--------|--------|
| <b>当期純利益</b>    | 9,432  | 11,490 |
| <b>その他の包括利益</b> | 1,325  | △3,713 |
| その他有価証券評価差額金    | △109   | △2,232 |
| 繰延ヘッジ損益         | —      | △0     |
| 為替換算調整勘定        | 1,319  | △1,617 |
| 退職給付に係る調整額      | 116    | 136    |
| <b>包括利益</b>     | 10,758 | 7,777  |
| (内訳)            |        |        |
| 親会社株主に係る包括利益    | 10,688 | 7,812  |
| 非支配株主に係る包括利益    | 70     | △35    |

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(2018年および2019年3月31日終了の事業年度)

(単位:百万円)

|                            | 2017年度 | 2018年度  |
|----------------------------|--------|---------|
| <b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>    |        |         |
| 税金等調整前当期純利益                | 14,676 | 16,218  |
| 減価償却費                      | 2,864  | 2,984   |
| 減損損失                       | —      | 44      |
| のれん償却額                     | 97     | 188     |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少)            | 334    | △423    |
| 退職給付に係る負債の増減額(△は減少)        | 119    | 211     |
| 割賦利益繰延の増減額(△は減少)           | 6      | △117    |
| 受取利息及び受取配当金                | △219   | △253    |
| 支払利息                       | 452    | 370     |
| 為替差損益(△は益)                 | △70    | 74      |
| 投資有価証券売却損益(△は益)            | △0     | △688    |
| 固定資産除売却損益(△は益)             | 34     | 29      |
| 関係会社出資金評価損                 | 87     | —       |
| 売上債権の増減額(△は増加)             | 3,765  | △5,492  |
| たな卸資産の増減額(△は増加)            | 1,872  | △9,302  |
| 仕入債務の増減額(△は減少)             | 10,181 | 5,650   |
| その他                        | 324    | △2,421  |
| <b>小計</b>                  | 34,526 | 7,073   |
| 利息及び配当金の受取額                | 220    | 255     |
| 利息の支払額                     | △452   | △372    |
| 法人税等の支払額                   | △4,278 | △4,441  |
| <b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>    | 30,015 | 2,515   |
| <b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>    |        |         |
| 定期預金の増減額(△は増加)             | 213    | △10     |
| 有形固定資産の取得による支出             | △2,628 | △12,518 |
| 有形固定資産の売却による収入             | 9      | 94      |
| 投資有価証券の取得による支出             | △1,216 | △3,861  |
| 投資有価証券の売却による収入             | 9      | 889     |
| 事業譲受による支出                  | —      | △412    |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出   | △266   | △795    |
| その他                        | △64    | △438    |
| <b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>    | △3,942 | △17,052 |
| <b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>    |        |         |
| 短期借入金の純増減額(△は減少)           | △4,473 | △2,077  |
| 長期借入れによる収入                 | —      | 6,200   |
| 長期借入金の返済による支出              | —      | △6,800  |
| 自己株式の取得による支出               | △2     | △0      |
| 自己株式の処分による収入               | —      | 0       |
| 配当金の支払額                    | △3,292 | △3,292  |
| 非支配株主への配当金の支払額             | △44    | △17     |
| 非支配株主からの払込みによる収入           | 78     | 513     |
| その他                        | △258   | △243    |
| <b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>    | △7,992 | △5,717  |
| <b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>    | 251    | △615    |
| <b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b> | 18,332 | △20,871 |
| <b>現金及び現金同等物の期首残高</b>      | 68,291 | 86,624  |
| <b>現金及び現金同等物の期末残高</b>      | 86,624 | 65,753  |

# トピックス

## 香西工場完成披露式を開催

2019年4月、日本では5つ目となる新工場「香西工場」が高松市香西北町に竣工し、8月29日に完成披露式を開催しました。

長期目標である「LE世界No.1」の達成に向け、建設用クレーンおよびブーム・シリンダ等主要部品の生産能力を高めることが新工場建設のねらいです。「Next Generation Smart Plant ~ 人と機械が調和し、次世代につながるスマート工場」のコンセプトのもと、無人搬送車や工場内の空調システム、そのほか最新鋭の設備を導入しています。当面は多軸のラフテレーンクレーン、海外向けのトラッククレーン、海外グループ会社向けの長尺シリンダなどを生産します。

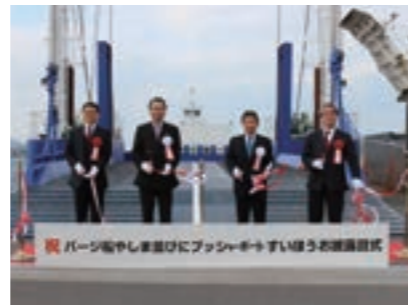


完成披露式

## 新たにバージ船とプッシャーボートを導入

当社は大型製品の輸送手段としてバージ船とプッシャーボートを利用してきましたが、このたび新造船を導入し、2019年2月21日に香川県高松市のジャンボフェリー(株)高松港にてお披露目式を開催しました。

建設用クレーンは通常、特殊車両の「通行許可」を取得し、一般公道を走行してお客様へ納品しています。しかし海外向けの販売が増加し、さらに近年、建設用クレーンの大型化も重なって、志度工場(さぬき市)から高松東港(フェリーターミナル)へのトレーラーによる搬送も困難になっていました。そのため2008年3月から、志度工場の南側に位置する志度港と高松東港との間で、バージ船での海上輸送を開始しました。新たにバージ船を導入したことで、香西工場が本格稼働した2019年8月以降も十分な輸送能力が確保できるとともに、無理の無い運航計画を立てることができ、より安全な輸送を実現できます。



お披露目式

## 国内最大ラフテレーンクレーン「CREVO1000 G4」発売

公道走行可能なラフテレーンクレーンとしては国内最大となる「CREVO1000 G4」を2018年9月に発売しました。キャリヤは70トンクラスと同じコンパクトなサイズではありますが、最大吊上荷重は100トン、最大地上揚程は48.7m(ブーム)/66.3m(ジブ)、そして最大作業半径は44.0m(ブーム)/56.0m(ジブ)と、高揚程や広範囲での作業領域を実現しました。日本向けラフテレーンクレーンでは初採用となる「シングル伸縮シリンダ機構」や、アウトリガが全張出状態においてもさらに性能を引き出すことができる「Smart-Chart」、自力着脱式のカウンタウエイトなど最新の技術を搭載することで、クレーン性能を最大に引き出すことが可能になりました。



CREVO1000 G4[型式:GR-1000N]

## GPIFが選ぶ「改善度の高い統合報告書」に選定

2019年1月、当社の「統合報告書2018」が、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の国内株式運用機関が選ぶ「改善度の高い統合報告書」に選定されました。

2018年は初めての統合報告書発行となりましたが、ストーリーを交えた経営理念の解説に始まり、Top Messageで5ページにもわたって社長自らが当社の課題と取り組み、経営や将来への展望を語る構成が「読みやすい」「分かりやすい」と好評をいただきました。

「改善度の高い統合報告書」として当社の名前を挙げていただいたことに感謝を申し上げますとともに、これからも株主や投資家をはじめとしたステークホルダーの皆さまに当社へのご理解を深めていただくため、より一層の改善に努めてまいります。



統合報告書2018

# 会社概要・株式の状況

## 概要

|         |   |
|---------|---|
| 商号      | 株式会社タダノ<br>TADANO LTD.                                      |
| 資本金     | 13,021,568,461円(発行済株式の総数 129,500,355株)                      |
| 設立      | 1948年8月24日  |
| 従業員数    | 単独1,428名 連結3,405名(2019年3月31日現在)                             |
| 事業内容    | 建設用クレーン、車両搭載型クレーン及び高所作業車等の製造販売                              |
| 本社      | 香川県高松市新田町甲34番地  |
| 工場      | 高松工場(高松市)、志度工場(さぬき市)、<br>多度津工場(香川県多度津町)、香西工場(高松市)、千葉工場(千葉市) |
| 研究所・試験場 | 技術研究所(高松市)、三本松試験場(東かがわ市)                                    |
| 支店・営業所  | 10支店・23営業所  |
| 海外事務所   | 北京事務所、中東事務所、モスクワ事務所、バンコク事務所                                 |

## グループ会社

| (日本)            | (海外)                                    |
|-----------------|---|
| 株式会社タダノアイメス     | タダノ・ファウン GmbH [ドイツ]                     |
| 株式会社タダノアイレック    | タダノ・ファウン・シュタルパウ GmbH [ドイツ]              |
| 株式会社タダノエステック    | タダノ・ユーカー Ltd [イギリス]                     |
| 株式会社タダノエンジニアリング | タダノ・フランス SAS [フランス]                     |
| 株式会社タダノテクノ東日本   | タダノ・ネーダーランド B.V. [オランダ]                 |
| 株式会社タダノテクノ西日本   | タダノ・ベルギー B.V.B.A. [ベルギー]                |
| 株式会社タダノ教習センター   | タダノ・アメリカ Corp. [アメリカ]                   |
| 株式会社タダノ物流       | タダノ・マンティス Corp. [アメリカ]                  |
| 株式会社タダノシステムズ    | タダノ・アメリカ・ホールディングス Inc. [アメリカ]           |
| 株式会社タダノビジネスサポート | タダノ・チリ SpA [チリ]                         |
| 株式会社戸田機工商会      | タダノ・ブラジル・エキバメントス・デ・エレヴァサオン Ltda. [ブラジル] |
|                 | 多田野(北京)科貿有限公司 [中国]                      |
|                 | 韓国多田野株式会社 [韓国]                          |
|                 | タダノ・アジア Pte. Ltd. [シンガポール]              |
|                 | タダノ・タイランド Co., Ltd. [タイ]                |
|                 | タダノ・イタルタイ Co., Ltd. [タイ]                |
|                 | タダノ・エスコーツ・インディア Pvt. Ltd. [インド]         |
|                 | タダノ・オセアニア Pty Ltd [オーストラリア]             |
|                 | 台湾多田野股份有限公司 [台湾] (*)                    |

(\*)関連会社であり、他は全て子会社です。

## 役員 (2019年7月1日現在)

|            |           |
|------------|-----------|
| 代表取締役社長    | 多田野 宏一    |
| 代表取締役副社長   | 鈴木 正      |
| 取締役・執行役員専務 | 奥山 環      |
| 取締役・執行役員専務 | 氏家 俊明     |
| 取締役・執行役員常務 | 西 陽一朗     |
| 取締役        | 吉田 康之(*)  |
| 取締役        | 野口 由典(*)  |
| 執行役員常務     | 飯村 慎一     |
| 執行役員常務     | 高梨 利幸     |
| 執行役員常務     | 橋倉 莊六     |
| 執行役員常務     | 澤田 憲一     |
| 執行役員       | 程 箭       |
| 執行役員       | インゴ・シラー   |
| 執行役員       | イエンス・エネン  |
| 執行役員       | 川本 親      |
| 執行役員       | 藤野 博之     |
| 執行役員       | 高木 啓行     |
| 執行役員       | 多田野 有司    |
| 執行役員       | 池浦 雅彦     |
| 執行役員       | 林 宏三      |
| 執行役員       | 徳田 裕司     |
| 執行役員       | 五味 幸雄     |
| 執行役員       | 官野 耕一     |
| 執行役員       | 合田 洋之     |
| 執行役員       | 森田 士朗     |
| 常勤監査役      | 児玉 義人     |
| 常勤監査役      | 北村 明彦     |
| 常勤監査役      | 井之川 和司(*) |
| 監査役        | 三宅 健一郎(*) |

(\*)社外取締役及び社外監査役を表します。

## 株式の状況 (2019年3月31日現在)

|          |              |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 400,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 129,500,355株 |
| 株主数      | 8,547名       |

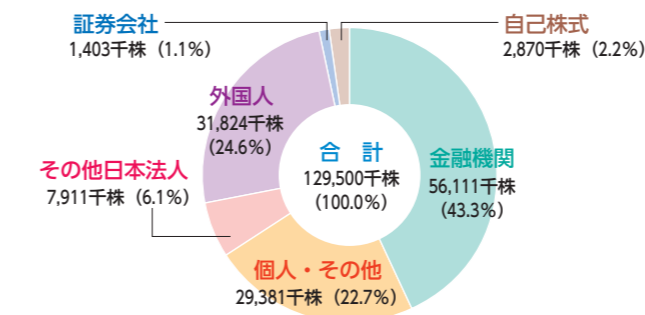
注)発行済株式の総数には、自己株式2,870,110株を含んでおります。

## 大株主

| 株主名                         | 所有株式数<br>(千株) | 持株比率<br>(%) |
|-----------------------------|---------------|-------------|
| 日本トラスティ・サービス<br>信託銀行株式会社    | 14,700        | 11.6        |
| 日本生命保険相互会社                  | 6,337         | 5.0         |
| 日本マスタートラスト<br>信託銀行株式会社      | 5,476         | 4.3         |
| 株式会社みずほ銀行                   | 5,246         | 4.1         |
| 株式会社百十四銀行                   | 5,171         | 4.0         |
| 明治安田生命保険相互会社                | 4,000         | 3.1         |
| 株式会社三菱UFJ銀行                 | 3,367         | 2.6         |
| 第一生命保険株式会社                  | 3,213         | 2.5         |
| タダノ取引先持株会                   | 2,924         | 2.3         |
| JP MORGAN CHASE BANK 385151 | 1,787         | 1.4         |

注)1.当社は自己株式を2,870,110株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
2.持株比率は、自己株式を控除して計算しております。  
3.日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社の持株数は、全て当該各社の信託業務に係る株式であります。  
4.日本生命保険相互会社の持株数には、特別勘定口に係る株式数を含んでおります。  
5.第一生命保険株式会社の持株数には、特別勘定口に係る株式数を含んでおります。

## 所有者別株式分布状況



# グループ会社・事業所一覧



## Europe 欧州

- Tadano Faun GmbH (ドイツ)
- Tadano Faun Stahlbau GmbH (ドイツ)
- Tadano UK Ltd (イギリス)
- Tadano France SAS (フランス)
- Tadano Nederland B.V. (オランダ)
- Tadano Belgium B.V.B.A. (ベルギー)

## The Americas 米州

- Tadano America Corporation (アメリカ)
- Tadano Mantis Corporation (アメリカ)
- Tadano America Holdings, Inc. (アメリカ)
- Tadano Chile SpA (チリ)
- Tadano Brasil Equipamentos de Elevação Ltda. (ブラジル)

## 海外事務所

- ◆ 北京事務所 ◆ モスクワ事務所
- ◆ 中東事務所 ◆ バンコク事務所

## Asia & Oceania アジア&オセアニア

- Tadano (Beijing) Ltd. (中国)
- Tadano Korea Co., Ltd. (韓国)
- Taiwan Tadano Ltd. (台湾)
- Tadano Asia Pte. Ltd. (シンガポール)
- Tadano (Thailand) Co., Ltd. (タイ)
- Tadano Italthai Co., Ltd. (タイ)
- Tadano Escorts India Pvt. Ltd. (インド)
- Tadano Oceania Pty Ltd (オーストラリア)



● 国内事業所、支店・営業所 ● 国内グループ会社 ● 部品センター

### 日本事業所

- 本社
- 東京事務所
- 高松工場
- 志度工場
- 多度津工場
- 香西工場
- 千葉工場
- 技術研究所
- 三本松試験場

### 支店・営業所

- |       |       |        |       |      |       |        |
|-------|-------|--------|-------|------|-------|--------|
| 北海道支店 | 旭川営業所 | 帯広営業所  | 函館営業所 | 中部支店 | 静岡営業所 | 松本営業所  |
| 東北支店  | 青森営業所 | 北東北営業所 | 郡山営業所 | 関西支店 | 京都営業所 | 神戸営業所  |
| 北陸支店  | 新潟営業所 | 金沢営業所  |       | 四国支店 | 松山営業所 |        |
| 関東支店  | 水戸営業所 | 群馬営業所  |       | 中国支店 | 岡山営業所 | 松江営業所  |
| 東京支店  | 千葉営業所 | 横浜営業所  |       | 九州支店 | 大分営業所 | 南九州営業所 |
|       |       |        |       |      |       | 沖縄営業所  |

### 日本グループ会社

- (株)タダノアイメス
- (株)タダノアイレック
- (株)タダノエステック
- (株)タダノエンジニアリング
- (株)タダノテクノ東日本
- (株)タダノテクノ西日本
- (株)タダノ教習センター
- (株)タダノ物流
- (株)タダノシステムズ
- (株)タダノビジネスサポート
- (株)戸田機工商会

### 部品センター

- グローバルパーツセンター(神戸市)
- 北海道部品センター
- 東北部品センター
- 北陸部品センター
- 首都圏部品センター
- 中部部品センター
- 九州部品センター
- シンガポールパーツセンター(2018年11月新設)

# グループ会社・事業所一覧

## 日本グループ会社

|      |                              |                                |                |
|------|------------------------------|--------------------------------|----------------|
| 販売   | <b>連結子会社</b><br>(株)タダノアイメス   | 〒130-0014 東京都墨田区亀沢2丁目4番12号     | ☎(03)3621-7741 |
| 製造   | <b>連結子会社</b><br>(株)タダノアイレック  | 〒764-0017 香川県仲多度郡多度津町西港町14番地の1 | ☎(0877)32-2161 |
|      | (株)タダノエステック                  | 〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地       | ☎(087)839-5785 |
|      | (株)タダノエンジニアリング               | 〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地       | ☎(087)839-5675 |
| サービス | <b>連結子会社</b><br>(株)タダノテクノ東日本 | 〒136-0082 東京都江東区新木場2丁目8番10号    | ☎(03)5569-2881 |
|      | (株)タダノテクノ西日本                 | 〒592-8352 大阪府堺市西区築港浜寺西町8番24号   | ☎(072)268-3434 |
| その他  | <b>連結子会社</b><br>(株)タダノ教習センター | 〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地       | ☎(087)839-5513 |
|      | (株)タダノ物流                     | 〒769-2101 香川県さぬき市志度5405番地3     | ☎(087)894-9530 |
|      | (株)タダノシステムズ                  | 〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地       | ☎(087)839-5545 |
|      | (株)タダノビジネスサポート               | 〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地       | ☎(087)839-5788 |
|      | (株)戸田機工商会                    | 〒760-0080 香川県高松市木太町1858番地1     | ☎(087)834-3434 |

## 海外グループ会社

|           |  |  |                   |
|-----------|--|--|-------------------|
| 欧州        | <b>連結子会社</b><br>Tadano Faun GmbH             | Faunberg 2, 91207, Lauf a.d. Pegnitz, Germany  | ☎+49-9123-185-0   |
|           | Tadano Faun Stahlbau GmbH                    | Faunberg 2, 91207, Lauf a.d. Pegnitz, Germany  | ☎+49-9123-185-171 |
|           | Tadano UK Ltd                                | 1-4 Wentworth Way, Wentworth Industrial Park, Tankersley, South Yorkshire, S75 3DH, U.K. | ☎+44-870-066-5466 |
|           | Tadano France SAS                            | 42 Avenue Longchamp, 57500 Saint Avold, France   | ☎+33-6-7571-2277  |
|           | Tadano Nederland B.V.                        | Component 1, 1446 WZ Purmerend, The Netherlands  | ☎+31-299-39-00-55 |
|           | Tadano Belgium B.V.B.A.                      | Industrieterrein 2, nr. 13, 3290 DIEST (WEBBEKOM), Belgium                               | ☎+32-1335-16-60   |
| 米州        | <b>連結子会社</b><br>Tadano America Corporation   | 4242 West Greens Road, Houston, Texas 77066, U.S.A.                                      | ☎+1-281-869-0030  |
|           | Tadano Mantis Corporation                    | 1705 Columbia Avenue, Franklin, Tennessee 37064, U.S.A.                                  | ☎+1-800-272-3325  |
|           | Tadano America Holdings, Inc.                | 4242 West Greens Road, Houston, Texas 77066, U.S.A.                                      | ☎+1-281-869-0030  |
|           | Tadano Chile SpA                             | San Pio X 2460, Oficina 1110, Providencia, Santiago, Chile                               | ☎+56-2-3280-2077  |
|           | Tadano Brasil Equipamentos de Elevação Ltda. | Avenida Angélica, 2491 - Conjunto 77, São Paulo-SP-CEP 01227-200, Brazil                 | ☎+55-11-4772-0222 |
| アジア・オセアニア | <b>連結子会社</b><br>Tadano (Beijing) Ltd.        | Room 1902, No.302 Huateng Mansion, Jinsong 3 District Chaoyang, Beijing, China           | ☎+86-10-8776-9766 |
|           | Tadano Korea Co., Ltd.                       | 2F, B213, 52, Chungmin-ro, Songpa-gu, Seoul, 05839, Korea                                | ☎+82-2-714-1600   |
|           | Tadano Asia Pte. Ltd.                        | 11 Tuas View Crescent, Multico Building, Singapore 637643                                | ☎+65-6863-6901    |
|           | Tadano (Thailand) Co., Ltd.                  | 500/70 Moo.2, T.Tasit, A.Pluak Daeng, Rayong 21140, Thailand                             | ☎+66-33-010-939   |
|           | Tadano Italthai Co., Ltd.                    | 2013 New Petchaburi Road, Bangkapi, Huay Kwang, Bangkok 10310, Thailand                  | ☎+66-2-318-5192   |
|           | Tadano Escorts India Pvt. Ltd.               | Plot No.219, Sec-58, Ballabgarh Distt. Faridabad, Haryana 121004, India                  | ☎+91-129-2306400  |
|           | Tadano Oceania Pty Ltd                       | 4/12 Archimedes Street, Darra, QLD 4076, Australia                                       | ☎+61-7-3120-8750  |
|           | <b>関連会社</b><br>Taiwan Tadano Ltd.            | 4F., No.77, Sec. 2, Dunhua S. Rd., Da'an Dist., Taipei City 10682, Taiwan (R.O.C.)       | ☎+886-2-2754-0252 |

## 日本事業所

|        |   |                 |
|--------|---|-----------------|
| 本社     | 〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地                        | ☎(087)839-5555  |
| 東京事務所  | 〒130-0014 東京都墨田区亀沢2丁目4番12号                      | ☎(03)3621-7777  |
| 高松工場   | 〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地                        | ☎(087)839-5555  |
| 志度工場   | 〒769-2101 香川県さぬき市志度5405番地3                      | ☎(087)894-3111  |
| 多度津工場  | 〒764-0017 香川県仲多度郡多度津町西港町14番地の1                  | ☎(0877)32-2161  |
| 香西工場   | 〒761-8011 香川県高松市香西北町747番地40                     | ☎(087) 813-1011 |
| 千葉工場   | 〒265-0045 千葉県千葉市若葉区上泉町424番地13 (ちばリサーチパーク内)      | ☎(043)239-1700  |
| 技術研究所  | 〒761-0301 香川県高松市林町2217番地13                      | ☎(087)869-2000  |
| 三本松試験場 | 〒769-2601 香川県東かがわ市三本松2277番地                     | ☎(0879)25-7481  |
| 北海道支店  | 〒003-0026 北海道札幌市白石区本通21丁目南1番40号                 | ☎(011)861-9030  |
| 旭川営業所  | 〒070-0034 北海道旭川市4条通8丁目1703番地59 (旭川四条ビル4階)       | ☎(0166)25-2817  |
| 帯広営業所  | 〒080-0010 北海道帯広市大通南12丁目20番地 (あおぼ十勝ビル3階)         | ☎(0155)28-6200  |
| 函館営業所  | 〒041-0806 北海道函館市美原3丁目16番25号 (日本ハウスホールディングスビル6階) | ☎(0138)47-5122  |
| 東北支店   | 〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東4丁目2番21号                  | ☎(022)288-5550  |
| 青森営業所  | 〒030-0861 青森県青森市長島2丁目10番4号 (ヤマウビル)              | ☎(017)777-4231  |
| 北東北営業所 | 〒020-0864 岩手県盛岡市西仙北1丁目35番46号                    | ☎(019)635-0611  |
| 郡山営業所  | 〒963-8025 福島県郡山市桑野2丁目2番16号 (藤尾ビル3階)             | ☎(024)932-3513  |
| 北陸支店   | 〒930-0177 富山県富山市西二俣344番地                        | ☎(076)436-1555  |
| 新潟営業所  | 〒950-1125 新潟県新潟市西区流通3丁目1番5                      | ☎(025)268-0770  |
| 金沢営業所  | 〒921-8011 石川県金沢市入江2丁目54番地 (中村ビル2階)              | ☎(076)292-2326  |
| 関東支店   | 〒362-0046 埼玉県上尾市大字壺丁目464番5                      | ☎(048)780-7711  |
| 水戸営業所  | 〒310-0853 茨城県水戸市平須町158番地268                     | ☎(029)244-3051  |
| 群馬営業所  | 〒379-2154 群馬県前橋市天川大島町3丁目52番4号                   | ☎(027)261-7211  |
| 東京支店   | 〒130-0014 東京都墨田区亀沢2丁目4番12号                      | ☎(03)3621-7790  |
| 千葉営業所  | 〒285-0802 千葉県佐倉市大作1丁目8番4号 (佐倉第三工業団地内)           | ☎(043)498-3520  |
| 横浜営業所  | 〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池辺町4843番地1                  | ☎(045)936-2811  |
| 中部支店   | 〒491-0824 愛知県一宮市丹陽町九日市場字下田122                   | ☎(0586)76-1181  |
| 静岡営業所  | 〒422-8008 静岡県静岡市駿河区栗原6番25号 (静鉄栗原ビル3階)           | ☎(054)261-1161  |
| 松本営業所  | 〒390-0852 長野県松本市大字島立399-1 (滴水ビル703号)            | ☎(0263)40-0360  |
| 関西支店   | 〒590-0906 大阪府堺市堺区三宝町7丁目352番地2                   | ☎(072)221-2727  |
| 京都営業所  | 〒601-8328 京都府京都市南区吉祥院九条町23番地1 (NKDビル3階)         | ☎(075)681-0421  |
| 神戸営業所  | 〒673-0898 兵庫県明石市樽屋町8番34号 (甲南アセット明石第二ビル503号)     | ☎(078)918-3111  |
| 四国支店   | 〒761-0185 香川県高松市新田町甲34番地                        | ☎(087)839-5777  |
| 松山営業所  | 〒791-1113 愛媛県松山市森松町886番地4                       | ☎(089)956-8800  |
| 中国支店   | 〒731-4311 広島県安芸郡坂町北新地1丁目4番96号                   | ☎(082)884-0255  |
| 岡山営業所  | 〒700-0941 岡山県岡山市北区青江1丁目7番33号 (青江土地倉庫ビル3階)       | ☎(086)223-9258  |
| 松江営業所  | 〒690-0061 島根県松江市白濁本町13番4号 (大樹生命松江ビル5階)          | ☎(0852)20-7393  |
| 徳山営業所  | 〒745-0007 山口県周南市岐南町8番31号 (福谷ビル2階)               | ☎(0834)31-1715  |
| 九州支店   | 〒816-0912 福岡県大野城市御笠川3丁目2番14号                    | ☎(092)503-7821  |
| 大分営業所  | 〒870-0913 大分県大分市松原町3丁目1番11号 (大分鐵鋼ビル5階)          | ☎(097)551-8567  |
| 南九州営業所 | 〒899-5231 鹿児島県始良市加治木町反土1442番地8 (インターフロントビル1階)   | ☎(0995)63-9720  |
| 沖縄営業所  | 〒901-2122 沖縄県浦添市勢理客2丁目18番5号 (GKビル101号)          | ☎(098)877-7077  |

## 海外事務所

|         |   |                   |
|---------|---|-------------------|
| 北京事務所   | Room 1902A, No.302 Huateng Mansion, Jinsong 3 District Chaoyang, Beijing, China | ☎+86-10-8776-9766 |
| 中東事務所   | PO Box 18302, LOB 15-323, Jebel Ali Free Zone, Dubai, UAE                       | ☎+971-4-8871353   |
| モスクワ事務所 | Russia, 125047, Moscow, 4th Lesnoy pereulok 4, Office 503                       | ☎+7-495-225-8508  |
| バンコク事務所 | 2013 New Petchaburi Road, Bangkapi, Huay Kwang, Bangkok 10310, Thailand         | ☎+66-99-608-4969  |